

資料紹介

伊藤忠岱書写日本漢文關係資料目錄

清水 信子

はじめに

伊藤忠岱（名祐義・祐慶、通称大助・代助、字忠岱、号鹿里・潜龍齋・仰継堂）は、安永七年（一七七八）、信濃・春日村（現長野県佐久市）に生まれ、郷里信濃を拠点として活動した漢学者である。幼時より学問を好んだが、父に従い家業（呉服商）を継ぎ、その関係上、京都、江戸に出る機会が多く、寛政八年（一七九六）頃より、京都の吉益より医学を、同十一年（一七九九）には、江戸の大田錦城に入門し儒学を学んだ。文化十三年（一八一六）には、家業を弟に譲り、学問に専念している。医学、漢学に通じ、著述もその両面に亘り、『刺絡聞見録二巻』（文化十四年刊）、『傷寒論張義定本二巻』（文化十五年刊）、『大学国字解二巻』（天保七年刊）、『老子国字解四巻』（天明

九年刊）等七点の刊本を含め、稿本と合わせ三十七点を残している。天保九年（一八三八）没、享年六十一。忠岱に関しては、青木歳幸氏が研究され、『在村蘭学の研究』（思文閣出版／平成十年二月）第六章「在村漢学者伊藤忠岱と蘭学―漢学と蘭学の接点―」には、忠岱旧蔵資料についても、医学、蘭学を中心に言及されている。

忠岱の旧蔵資料は、現在、玄孫の伊藤祐俊氏宅に管理され、その数は約六百部一千冊以上に上る。その多くは忠岱自筆の書写資料で、医書、漢学、その他、軍談等の雑書からなる日本人著述資料即ち国書と、漢籍の注釈等その関連資料即ち準漢籍に大別される。このような地方を拠点とした漢学者の旧蔵資料については、当時の日本全体における漢学、及び文献の受容、伝播の実態を知るための資料として貴重であろう。これらについては、伊藤伯太記『仰継堂蔵書目録』、及び前掲青木氏により加筆・整理されたもの（同氏前掲書所載）により、書名等蔵書の全容は概観されるが、実際には未整理な状態であり、個々の資料についての詳細は知れない。そこで、その本格的な調査が俟たれるところであり、今回、その端緒として、医学、及び漢学関連資料を中心とした日本漢文關係資料を対象として調査

に着手した。その選択理由には、旧蔵資料の中でも特筆すべきものと言える、講義を筆記した講義録即ち「聞書」「記聞」類の存在が挙げられる。それらは、漢学の師大田錦城、医学の師吉益南涯をはじめとした講説者の学問的態度、方法等学識が如実に示される第一次資料として、各人物を研究する際には看過することができず、その資料的価値の大きいものである。また、忠岱が筆記した「聞書」については、自筆本やそれらを書写したものが、現所蔵者伊藤氏以外にも所蔵が散見するため、それは私的な一受講録という範囲に留まるものでもない。さらに、錦城講説『書経』の聞書は、『先哲遺著漢籍国字解全書』第六卷（明治四十三年九月／早稲田大学出版部）所収『尚書記聞』（忠岱書写資料の標題は「書経聞書」）の定本とされ、翻刻されているように、一定の評価を得ていたと言える。よってそれらを今回の調査対象とし、平成十六年八月二日から六日に伊藤氏宅にて、基本的書誌事項の調査、必要箇所の写真撮影等を行った。そして、その後、調査カードと写真とを照合しつつ、目録化作業に移った。

既調査資料は二二七点で、その分類別数、及び著者別数は、目録末に付した別表の通りである。その分類別数については、

調査対象の選択上、必然的に医書が多い結果となったが、前掲『仰継堂蔵書目録』によれば、蔵書全体としても医書が最多である。同様に準漢籍についても、全体を通して、その蔵書は経部と子部に限られる。これらの蔵書傾向からは、忠岱の学問傾向の一端が推察されるが、それについては、さらに蔵書全体を詳細に調査・整理し、総合的に判断していかなければならない。また、今後は、調査対象資料の選択理由の一つとした講義録類について、中でも、近世日本漢学の観点から、大田錦城の講義録について詳察し、その講義内容から窺測される当時の錦城の思潮等について追究していきたい。

本目録の作成に当たり、資料所蔵者伊藤祐俊氏、また夫人には、資料の調査に際しご理解いただいたことはじめ、諸事に亘り便宜を賜った。またそれらの書誌調査については、町泉寿郎本学東アジア学術総合研究所講師主導のもと、加藤麻衣子本学大学院博士課程前期二年生と筆者との共同作業となった。本目録は、これら各氏のご指導とご協力のもとに成ったものである。末文ながらここに記して心より謝意を表する。

凡例

一、 本目録は、伊藤忠岱の旧蔵書約六〇〇部一〇〇〇冊以上の中から日本漢文関係資料を中心とした二二七点についての目録である。尚、一冊に別著者の資料が合収されている場合等については、著者ごとに掲出したため、実際の目録掲出数は異なる。

一、 分類については、まず資料を著者別に分類し、続いて各資料を、日本人の著述による国書と、漢籍の注釈資料等準漢籍に分類した。著者別に分類したことについては、本資料の各編著者に、師弟関係をはじめとして、書写者伊藤忠岱と直接的に関係があった人物が多数含まれていることから、忠岱の資料収集、及び書写意識には、著録内容はもとより、各編著者自身にも主点が置かれていたと思われるためである。また、この分類により、忠岱の学統、学風が窺測されることが期待される。

一、 排列については、原則として、編著者、資料ともに五十音順としたが、準漢籍については、四部分類により排列した。

一、 立項した著者名標記については、原則として字号を優先し、(一)内には、本資料に見える他の署名標記を記した。

一、 表記は、原表記に関わらず常用漢字体に統一した。

一、 各資料の書誌事項は、第一行より、書名・巻数、編著者事項、成書事項、冊数(闕巻がある場合、「全」字無し)、忠岱資料整理番号、改行第二行より、書形寸法(縦×横。有匡廓の場合、匡廓内寸法)、每半葉行字数(有界の場合のみ明記)、注文形態、句点等書式書面、改行第三行より、著録内容、封面・表紙・題簽題、蔵書印(無印の場合省略)等とした。尚、題簽、及び表紙は、忠岱子宗周等後人によるものも含まれる。

一、 各記号は、「/」は改行、「…」は省略、「■」は判別不能字を示し、各括弧は、推定事項は「()」、小字双行表記は「()」、その他補足事項は「()」を示す。

一、 書名は、原則として巻一巻頭題より定めるが、明記されていない場合は、表紙題等より適宜定め、「()」に入れた。

一、 編著者事項については、原本の記載を踏襲した。よって、同一人物であっても、表記は不統一である。但し、書写者伊藤忠岱の場合は、「忠岱」に統一した。尚、書写者について、人物が特定されない場合は、「写本」とのみ記した。

一、 書写日付の具体的日付、及び書写識語における改行については、適宜省略した。

浅井南溟

- 〔浅井南溟先生伝書〕 浅井南溟先生 伊藤忠岱写本 全二冊
123

二十五・九×十八・七 十二行十九字内外和文注文小字双行
有図 句送返点

- 首「浅井南溟先生腹診伝」 次「浅井南溟先生秘書」 次「腹診」 次「浅井南溟先生伝書」 元表紙曰「南溟先生伝書」
猪飼敬所

〔九経談辨駁標記〕 十卷 猪飼氏 天保三年五月伊藤忠岱写本
全二冊 160

二十六・八×十九・三 十行十九字内外注文小字双行 句点
首「九経談」〔卷一〕〔卷頭有序〕 以下至卷十 卷十末曰「天保三年壬辰五月於撰州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之伊藤祐義忠岱書」 元表紙曰「九経談辨駁標記ノ猪飼氏」 題簽題「九経談標記」

池田瑞仙（成美）

痘疹精要一卷 池田成美瑞仙著述 文化十五年伊藤忠岱写本 全一冊 53

二十七・二×十八・五 十二行二十二字注文小字双行 無点

首「痘疹精要ノ東都医官池田成美瑞仙著述」末曰「文化十五年五月朔日写始同五日朝終此朔日年号改元曰文政其告令在浅草北馬道三輪東朔先生許而聞此写功成之時ノ伊藤大助藤原祐

義」 元表紙曰「痘疹精要」 題簽題「痘疹精要」

池田正直

〔池田家痘科療法並伝説〕 不分卷 池田正直筆記 池田瑞仙（成美）再正並撰次 文化四年伊藤忠岱写本 全三冊 52
二十五・三×十七・九 十行十七字和文 眉注書入

首「幼々齋治痘要訣」末曰「文化四年乙卯年二月四日写始至十八日功果上毛中宿須藤寿圭氏藏書也ノ伊藤監写之」 次「痘疹百死形状伝ノ明戴曼公先生著ノ門人池田正直筆記ノ男瑞仙再正」 次「痘疹治術伝ノ明戴曼公先生著ノ門人池田正直筆記ノ男瑞仙再校」 次「戴曼公先生治痘方論ノ池田正直筆記ノ成美撰次」末曰「文化四丁卯年二月十四日写始三月四日功畢ノ伊藤大助」 元表紙曰「池田家痘科療法並伝説」 表紙曰「池田家痘科伝」

戴曼公先生痘疹口訣一卷 〔池田正直記〕 文化十五年四月伊藤忠岱写本 全一冊 55

二十七・一×十八・二 十二行二十二字内外和漢混合文注文

小字双行 傍注

首「戴曼公先生痘疹口訣」末曰「此書ハ紺屋町代地小林坦齋之許ヨリ得テ文化十五年戊寅四月九日ニ写始同十三日写畢

／伊藤大助藤原祐慶（書入「後ニ祐義改ム」）元表紙曰「戴曼公先生疹口訣」題簽題「戴曼公先生痘疹口訣」

伊藤見龍

諸百家医書掌中目錄（他二種合収） 伊藤見龍著 寛政十年伊藤

忠岱写本 全一冊 40

二十四・五×十五・四 八行十五字内外 無点

首「諸百家医書掌中目錄／出羽州大泉伊藤見龍著」末曰「右

寛政十戊午元旦医学蒙求ノ中自書出者也／伊藤潜竜齋」次

副葉裏曰「武州本庄足利■伝の薬方」次「出漫遊雜記」次

「東洞先生丸散方十二律」封面題「諸百家医書掌中目錄」

又「伊藤見龍好礼／男玄軌著」「右之書ハ医書蒙求之中ヨリ

抜粹者也」又封面題「独嘯庵先生著述漫遊雜記抜卒記／東

洞先生著述之丸散方」表紙曰「医書掌中目錄 独嘯庵先生

丸散方／東洞先生丸散方」

伊藤仁齋（長胤）

〔小刻傷寒論序解〕（他二種合収） 伊藤長胤 天保二年五月伊

藤忠岱写本 全一冊 34

二十六・二×十九・二 六行十五字内外注文小字双行 句点 眉注書入

首「刻傷寒論叙」末曰「正徳乙未（五年）之歲仲冬朔 伊藤長胤書」（前有封面「小刻傷寒論序解」）次封面「葉徵序国

字解全」次「葉徵序」末曰「信濃春日仰繼堂／伊藤忠岱祐

義述」次封面「仲景氏傷寒論自序諺解全」次「傷寒論序」

末忠岱記」題簽「仲景氏傷寒論自序／伊藤仁齋先生序一國

解一鹿里伊藤祐義編／葉徵序国字解」

伊藤忠岱（祐義・祐慶・大助・代助・鹿里・潜龍齋）

〔葉徵序国字解〕（仲景氏傷寒論自序諺解）（他一種合収） 伊藤

祐義述・著 全一冊 34

*前掲「伊藤仁齋」項『〔小刻傷寒論序解〕：』参照。

類聚方序一卷 鹿里伊藤祐義講說 天保二年伊藤忠岱写本 全一

冊 36

二十六・六×十六・七 六行十二字注文和文小字双行二十五

字内外 眉注書入

首「類聚方序」末曰「天保二年辛卯六月因少県郡上田木内玄

俊之子吉益之請草卒執筆記之 伊藤祐義忠岱記」題簽題

「類聚方序」又「鹿里伊藤忠岱祐義講説」

〔大学章句序解〕一卷 伊藤祐義忠岱述 天保四年三月伊藤忠岱
写本 全一冊 197

二十七・〇×十八・五 六行十六字注文和文小字双行二十五
字内外 無点

首「大学章句序」末曰「天保四年癸巳三月十五日於上州佐位郡^{勢多郡}
津久田多胡玄同子之若恒享記之」伊藤祐義忠岱述 題簽題

〔中庸章句序解〕一卷 天保四年十月伊藤忠岱写本 全一冊 201

二十六・九×十八・四 六行十六字注文和文小字双行 無点
首「中庸章句序」末曰「天保四癸巳年十月二十日上州伊勢崎

於柳田貞曹方述之」信濃春日伊藤忠岱祐義 題簽題「中庸
章句序解」

中庸国字解四卷 伊藤祐義著 伊藤忠岱写本 全四冊 202

二十六・八×十八・七 六行十五字注文和文小字双行二十二
字内外 無点

首「中庸国字解」信濃伊藤祐義忠岱著「中庸章句序」次「中
庸国字解卷之一」信濃伊藤祐義忠岱著「中庸 朱熹章句」

以下至卷四 封面題「中庸国字解」 題簽題「中庸国字解」

今井松庵

雜方口訣一卷 今井松庵先生口授 天保五年一月伊藤忠岱写本
全一冊 225

二十六・八×十八・二 十行二十四字内外 無点
首「雜方口訣」目錄 次「雜方口訣」今井松庵先生口授

末曰「天保五年甲午正月二十九日」伊藤祐義忠岱写之 元
表紙曰「雜方口訣今井氏」 題簽題「今井氏雜方口訣」

松菴先生雜方口訣一卷 松菴先生 天保四年十二月写本 全一冊
224

二十六・八×十八・一 十一行三十二字内外注文小字双行
傍注

首「松菴先生雜方口訣」末曰「天保四辰年十有一月十一日」
元表紙曰「松菴先生雜方口訣」 題簽題「今井松菴先生雜方

口訣」又「慶応三年表書」

小兒奇方雜記一卷 今井松庵先生家藏方 伊藤忠岱写本 全一冊
68

二十六・七×十八・三 十行二十五字内外和文 無点
首「小兒奇方雜記」今井松庵先生家藏方 元表紙曰「今井

松庵先生家藏方／小兒竒方雜記」 題簽題「小兒竒方」又「今

井松庵先生家藏方／伊藤忠岱祐義記」

診候伝一卷熱病論解一卷 松菴先生著 熱病論解 木村秀茂校

〔伊藤宗周〕写本 全一冊 226

二十六・七×十八・二 十行不定(熱病論解二十字内外) 無

点 有凶

首「診候伝」 次「附録／虫」 次「熱病論解／松菴先生著

門人信濃木村秀茂校」 題簽題「今井氏診候伝」

刪定傷寒論摘古内篇一卷榦余外篇一卷 松庵先生 伊藤宗周写本

全一冊 32

二十六・六×十七・六 八行十六字 朱句点

首「刪定傷寒論摘古内篇」 次封面「松庵先生煮刪定傷寒論

榦余外篇全」 次「刪定傷寒論榦余外篇」 印記「定齋」

箋註傷寒論摘古内篇一卷 松菴今井敏郷子慎著 原尚德等子文校

白倉信煥文宗口解 (慶応三年伊藤宗周) 写本 全二冊 220

二十六・七×十八・二 十行二十五字内外注文小字双行 眉

注 送返点

首「箋註傷寒論摘古内篇／東都松菴今井敏郷子慎著／門人一

東都原尚徳子文／…／下毛杉本楨大幹一同校／信濃晚進弟

子白倉信煥文宗口解」 次「太陽病三日…」 各末曰天保四

年書写識語 元表紙曰「傷寒論内篇口解」 題簽題「白倉錦

峯先生説／傷寒論摘古内篇聞書」又「于時慶応三年十二月三

日記／伊藤祐之藤原宗周／五十八歳今日録」

箋註傷寒論摘古内篇一卷 松菴今井敏郷子慎著 原尚德等子文校

慶応三年十二月伊藤宗周写本 全一冊 221

二十七・三×十九・一 八行十六字内外注文小字双行

首「箋註傷寒論摘古内篇／東都松菴今井敏郷子慎著／門人一

東都原尚徳子文／…／下毛杉本楨大幹一同校」末曰「慶応三

年十二月十九日記ス」 次「太陽篇」(末題「傷寒論内篇」)

末曰「天保五甲午年二月二十八日写終／鹿里伊藤祐之書之」

次「腹痛…」 題簽題「箋註傷寒論摘古内篇」又「松菴今井

先生撰書／伊藤宗周筆録…」

箋註傷寒論摘古内篇一卷 今井敏郷著 原尚德等校 伊藤宗周写

本 全一冊 222

二十六・七×十七・〇 八行十六字注文小字双行 朱句点

首「箋註傷寒論摘古内篇／東都松菴今井敏郷子慎著／門人一

東都原尚徳子文／…／下毛杉本楨大幹一同校」 印記「定

〔齋〕

刪定傷寒論緒言一卷 今井敏郷子慎父撰 伊藤文作（宗周）写本
全一冊 223

二十六・九×十六・七 八行十六字 眉注 傍注 朱句点
首「刪定傷寒論緒言／東都今井敏郷子慎父撰」末曰「文政丁巳春二月／信阳春日／伊藤文作書之」

巖恭敬

建銖録一卷 巖恭敬甫輯録 田栄信愿仲校閱 寛政九年伊藤忠岱

写本 全一冊 42

二十四・五×十五・六 八行十五字 無点

首「凡例」次「建銖録／東洞吉益先生門人／播磨巖恭敬甫輯録／田栄信愿仲校閱」以下 末曰「寛政九丁巳歳十二月十三日筆ヲ立同十八日書畢／伊藤潜竜斎／藤原祐義」表

紙曰「東洞家建銖録」

宇田川玄真

〔小兒全書外療篇二卷〕 涅羅先漢羅先斯添著 宇田川玄真訳

足立長雋校 伊藤忠岱写本 全二冊 71

二十八・二×十六・六 十行二十六字内外和文注文小字双行

無点

首「小兒痘瘡篇第十三上／遠西チヘーレンハンセーセンステイン 涅羅先漢羅先斯添著／津山

医員 宇田川玄真訳定／篠山医員 足立長雋校定」以下下
次「小兒全書外療篇上／カルヘルヨヤクウーハマ著／千七百七十三年レイツシク（各／地）発行」以下 元表紙曰「小兒痘瘡篇」等 題簽題「小兒全書」

永允周楨

治療捷徑二卷 永允周楨撰 文化六年伊藤忠岱写本 全二冊

137

二十七・一×十八・七 十行二十字内外 無点

首「治療捷徑上／目次」次「治療捷徑上卷／東都牛門水允周楨撰」以下至卷下 末曰「伊藤祐義藏書」又「文化六年癸未十二月写之」封面題「治療捷徑」 題簽題「治療捷徑」

惠美三白

惠美君医事談一卷 惠美三白 伊藤忠岱写本 全一冊 98

二十四・六×十五・五 九行十六字和文 無点

首「惠美君医事談」封面題「惠美君医事談」 題簽題「惠美君医談」 印記「仰繼／堂藏」

子幹惠美先生医説拔萃一卷 〔惠美三白〕 伊藤忠岱写本 全一

冊 110

二十七・〇×十九・四 九行二十三字内外和文 無点

首「子幹惠美先生医說拔萃」 封面題「惠美医說」

晚成堂吐法私錄(他五種合収) 〔惠美三白〕 文政元年伊藤忠

岱写本 全一冊 80

温疫考 樗園主人著

晚成堂吐法私錄 〔惠美三白〕

默成堂春秋散 〔朝陽右門〕

痘疹必用方 吉村遍宜

叢桂亭藏方 〔原南陽〕

東郭先生家藏方 〔和田東郭〕

二十六・八×十九・〇 十二行二十二字和文注文小字双行

無点

首「温疫考／樗園主人著」又「与竹中文輔書」 次「晚成堂

吐法私錄」 次有封面「默成堂春秋散／痘疹必用方」 次「默

成堂春秋散」卷頭有文化十年永崖釣徒〔序〕末曰「文政元年丙

寅八月二十一日写」 次明和五年中西惟忠「題痘疹必用方」

次「痘疹必用方／薩州 吉村遍宜著」 次吉村遍宜「痘疹必

用自跋」 次有封面「叢桂亭藏方／東郭先生家藏方」 次「甲

字湯 理瘀血方」 末曰「文政元年戊寅五月二十八日於武州

児玉郡本庄駅神岡玄俊之宅写之余先年求原叢桂之医事小言読

之有方名而無其方故欲求其方不得之今得其方以騰写爾／伊藤

大助藤原祐慶」 次「東郭先生家藏方」 元表紙曰「温疫考

樗園杉本先生／竹中文輔書 同／吐法私錄 惠美三伯／默成

堂春秋散 朝陽右門／痘疹必用方 吉村遍宜／叢桂亭藏方

原南陽／和田東郭先生家藏方」 表紙曰「一温疫考／默成堂

春秋散一樗園主人著／一痘疹必用方／吐法私錄一吉村遍宜／

業桂亭藏方／和田家藏方」

晚成堂方函一卷 〔惠美三白〕 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊

47

二十七・〇×十九・一 十行二十字内外 無点

首「晚成堂方函」 末曰「天保二年辛卯十月於撰州大坂御城

内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之 伊藤祐義忠

岱書」 元表紙曰「晚成堂方函」 題簽題「晚成堂方函」

大田錦城(太田／元貞・公幹)

足利学校藏本(他八種合収) 錦城太田元貞記 伊藤忠岱写本 全

一冊 170

中庸考 太田元貞公幹著

中庸闡書 錦城先生講說

丹鉛余録

近聞偶筆抄 篁墩吉漢宦学儒者

香雨樓記 錦城老人太田元貞撰

足利学校蔵本 錦城太田元貞記

老子聞書 晴軒芝山先生講説 伊藤祐義筆記

晴軒先生文集

性善性惡並行不相悖辨 海保尚賢

二十七・一×十九・一 十二行二十二字 無点

首「中庸考／日本 加賀 太田元貞公幹著」次「中庸聞書

錦城先生講説」次「丹鉛余録」次「近聞偶筆抄／篁墩吉

漢宦学儒者」次「香雨樓記」末曰「文政二年己卯四月十三

日錦城老人太田元貞撰」次「足利学校蔵本」末曰「錦城太

田元貞記」次「老子聞書／晴軒芝山先生講説 伊藤祐義筆

記」次「晴軒先生文集」次「性善性惡並行不相悖辨 海

保尚賢」元表紙曰「中庸考 錦城先生／中庸講説 同／丹

鉛余録／近聞偶筆抄／錦城先生文二篇／晴軒太田先生老子講

説老子孝／…」表紙曰「雜書」

香雨樓記（他八種合収） 錦城老人太田元貞撰 170

*前掲『足利学校蔵本…』参照。

春草堂隨筆二卷 太田元貞著 文化十三年至十四年伊藤忠岱写本

全二冊 168

二十七・三×十九・二 十二行二十字 句点

首「春草堂隨筆卷之二／日本加賀太田元貞公幹著」末曰「文

化十三年丙子十一月二十一日入 錦城先生ノ門二十二日聞

其講説而借隨筆其夜写始同二十八日終小網町三丁目加田屋

長右衛門之宅／伊藤大助藤原祐慶謹書」以下卷二 末曰

「文化十三年十二月二十三日写始同十四年正月終其間筆記

刺絡聞見録一卷此三輪東朔先生之説而我作草稿將上木者也」

封面題「春草堂隨筆」 題簽題「春草堂隨筆」

〔耄余漫録〕即春草堂隨筆不分卷 太田元貞著 文政七年以降伊

藤忠岱写本 全一冊 167

二十六・九×十八・八 十二行十八字内外 句点

首「駁備前尾関子正難大学原解」次「送楊井士漫序」末曰

「文政七年夏四月既望」次「中庸原解序」次「赤壁」等

七絶十一首 元表紙曰「耄余漫録」 題簽題「春草堂隨筆」

春草堂雜録二卷附一卷 太田元貞著 伊藤忠岱写本 全二冊

169

二十六・九×十九・二 十二行二十二字内外注文小字双行

有圖 眉注

亥五月寫十二三十四五十四日寫之」 元表紙曰「學說示要」

首「春草堂雜錄／日本加賀太田元貞公幹著」 一部章末天明

題簽題「學說示要」

七年太田元貞識語曰「丁未（天明七年）八月二十九日貞識」

疑問錄一卷 太田元貞公幹著述 文政元年十二月伊藤忠信寫本

「皇和天明丁未秋九月二日／加賀後學太田元貞謹函」「天明

全一冊 163

丁未九月晦貞識」「貞再／識」 次「春草堂雜錄二／日本加賀

二十七・〇×十八・九 十二行二十二字 無点

太田元貞公幹著」末曰「丁未夏五月」 次「春草堂雜錄睡余

首「疑問錄說前集／加賀 太田元貞公幹著述」末有寬政七年

雜抄」 元表紙曰「春草堂雜錄」 題簽題「春草堂雜錄」

太田元貞（跋） 又曰「文政紀元戊寅十二月十六日寫始同二

精義錄一卷洙泗仁說一卷埴錦城先生著述目錄 太田元貞公幹著

十一日畢／伊藤大助藤原祐義謹寫」 元表紙曰「疑問錄」 題

文政三年以降伊藤忠信寫本 全一冊 152

簽題「疑問錄」

二十七・〇×十八・九 十二行二十字注文小字双行 無点

錦城先生文錄一卷直見編一卷 太田元貞著 文政二年伊藤忠信寫

首「錦城先生著述目錄」 次「精義錄／日本 加賀 太田元

本 全一冊 166

貞公幹著」 次文政三年太田元貞「洙泗仁說序」末曰「文政

二十六・九×十九・〇 十二行二十二字内外注文小字双行

三年歲次庚辰月維仲秋日維端午／加賀太田元貞才左識」 次

有圖 無点

「洙泗仁說／加賀 太田元貞著」 題簽題「錦城先生著述目

首「錦城先生文錄」末曰「文政二年己卯三月十二日寫 伊藤

錄／精義錄／洙泗仁說」

大助藤原祐義」 次「直見編」末曰「文化十二年七月十一日

學說示要一卷 太田元貞公幹著 文化十二年五月伊藤忠信寫本

寫之」 冒頭有太田錦城寬政十年序（末曰「寬政戊午竹醉日

全一冊 161

加賀太田元貞公幹甫書于指古堂」 元表紙曰「錦城先生文錄」

二十七・〇×十九・〇 十二行二十字 句点

題簽題「錦城先生文錄／直見編」

首「學說示要／日本 加賀 太田元貞公幹著」末曰「文化乙

周易聞記七卷 錦城先生講說 文化癸亥(？年)十月須天董齋筆

記文政六年五月伊藤忠岱寫本 全七冊 184

二十六・六×十八・七 十二行二十五字内外和文 無点

首「周易聞記 文化癸亥十月十七日開講／錦城先生講說 須

天董齋筆記」 以下至卷七(卷二以下「聞記」作「聞書」) 卷

一末曰「文政六年四月十六日至四谷御門外荒木横町之須天董

齋之許借之同日写始同十九日写終／伊藤忠岱祐義書」他一部

卷末有書写識語 元表紙曰「錦城先生講說／周易聞書」 題

簽題「周易聞書」又「須天氏」

周易王弼本聞書三卷 太田錦城先生講說 文政五年九月筆記同六

年三月伊藤忠岱寫本 全三冊 185

二十六・七×十八・九 六行十四字注文和文小字双行二十二

字内外 無点

首「周易上經(王弼本)聞書 (文政五年壬午九月朔日／開

講)／太田錦城先生講說」末曰「文政六年癸未三月二十二日

写始同二十五日終」 以下至卷二 元表紙曰「周易聞書」 題

簽題「周易聞書」又「癸未／孟春」

周易集註十七卷 太田元貞公幹編輯 文政六年三月至七年五月

伊藤忠岱寫本 全十七冊 156

二十七・一×十八・六 十二行二十字内外注文小字双行 有

凶 眉注 朱傍注 朱句点

首「周易集註卷之一／日本 加賀 太田元貞公幹編輯」 卷

十七末曰「文政七年甲申五月十三日写始同十八日終其間聞晴

軒先生之荀子儒效列子之黄帝錦城先生之周易天風之講說旁

写莊子逍遙遊之聞書」他一部卷末有書写識語 元表紙曰「周

易集註」 題簽題「周易集註」 印記「仰繼／堂藏」

周易聞書三卷 (大田錦城講說 伊藤忠岱筆記) 文政六年六月

〔伊藤忠岱〕筆記並寫本 全一冊 180

二十六・一×十八・八 六行十三字内外注文和文小字双行二

十五字内外 眉注 傍注

首「說卦伝」 次「序卦伝 六月十六日」 次「序卦伝 六

月十六日」 元表紙曰「周易聞書」 題簽題「周易聞書」又

「說卦序卦雜卦」

周易聞書一卷 錦城太田先生講說 (文政六年) 伊藤忠岱祐義筆

記並寫本 全一冊 182

二十六・六×十八・六 六行十二字注文和文小字双行二十四

字内外 無点

首「周易聞書／錦城太田先生講說／信濃 伊藤祐義忠岱(筆

／記」／說卦伝」 題簽題「周易聞書」又「說卦伝」

周易聞書一卷 (大田錦城講說 伊藤忠岱筆記) 伊藤忠岱寫本

全一冊 181

二十六・六×十八・七 六行十二行内外注文和文小字双行二

十四字内外 無点

首「序卦伝」 次「雜卦伝」 題簽題「周易聞書」又「序卦

／雜卦」

周(易)聞書十七卷(卷一、二闕) 太田錦城先生講說 文政六

年七月至同七年一月伊藤祐義忠岱筆記 自卷十六同七年八月海

保尚賢筆記 文政八年二月伊藤忠岱寫本 十五冊 187

二十六・一×十八・七 六行十四字注文和文小字双行二十七

字内外 無点

首「周書聞書三 癸未九月十二日／太田錦城先生講說 伊藤

祐義忠岱筆記／水天需」 以下至卷十七 自卷十六「伊藤忠

岱祐義筆記」作「海保尚賢筆記 一部卷頭有講義日付」 卷

十七末曰「文政甲申(七年)閏八月十七日終」又曰「甲申八

月四日聞養父之病帰テ国不得終其講今年乙酉二月三日発テ国

寓 湯嶋天神下松平但州侯之邸請海保氏之聞書為完璧者也其

数凡八卦也故記其姓名別自之所記云爾」 次「文政八年」伊

藤祐義(識語) 元表紙曰「(癸未/季秋)周易聞書」 題簽

題「周易聞書」 印記「仰」

周易聞書三卷 太田錦城講說 文政六年八月伊藤祐義忠岱筆記

並寫本 全三冊 183

二十六・七×十九・一 六行十二字注文和文小字双行二十四

字内外 無点

首「周易聞書一(文政六年癸未八月六日)／太田錦城先生講

說／信濃 伊藤祐義忠岱筆記／上繫辞伝」 以下至卷三 元

表紙曰「周易聞書 上繫辞」 題簽題「周易聞書」又「上繫

辞」

周易聞書(存卷十三、十四) 太田錦城講說 文政六年至同七年

頃伊藤祐義忠岱筆記 文政六至八年頃同寫本 二冊 186

二十六・〇×十八・七 六行十四字内外注文和文小字双行二

十七字内外 無点

首「周易聞書卷十三／(坤下/兌上)萃」 次「周易聞書卷

十四／錦城太田先生講說／信濃 伊藤祐義忠岱筆記／上繫

辞伝」 元表紙曰「周易聞書」 題簽題「周易聞書」

周易參考十二卷 太田元貞公幹著 文政七年五月同九年五月伊藤

忠岱寫本 全六冊 143

- 二十六・七×十八・八 十二行二十字 朱傍線 朱句点
 首「周易参考卷一」／日本加賀太田元貞公幹著 以下至卷十
 二 卷十一曰「文政七年甲申五月二十七八九日写」他一部卷
 末有書写識語 元表紙曰「周易参考」 題簽題「周易参考」
 繫辭詳說二卷 太田元貞公幹著 皆川盛貞子恭校 寛政元年草稿
 文政六年九月伊藤忠岱写本 全二冊 155
- 二十六・五×十八・八 十二行十九字内外 朱傍線 朱句点
 首「繫辭詳說上」／日東 加賀 太田元貞公幹著／門人 出羽
 皆川盛貞子恭校 以下卷下 卷上末曰「文政六年癸未八月
 写之」 卷下末曰「寛政己酉六月二十七日夜加賀大田元貞才
 佐草」又「文政六癸未九月写」 元表紙曰「繫辭詳說」 題
 簽題「繫辭詳說」
- 〔増注〕繫辭詳說四卷 太田元貞公幹著 文政八年三月伊藤忠岱
 写本 全四冊 154
- 二十六・五×十九・三 十二行二十字注文小字双行 眉注書
 入 朱句点
 首「繫辭詳說卷一」／日本 加賀 太田元貞公幹著 以下至
 卷四 末曰「文政八年乙酉二月三日出郷里同九日至江戸十二
 日写始三月三日終」伊藤祐義写 元表紙曰「繫辭詳說」 題
- 簽題「繫辭詳說」又「増注」
 当位不当位考即繫辭詳說附録一卷 〔大田錦城〕 伊藤忠岱写本
 全一冊 151
- 二十六・〇×十八・八 十二行二十字内外 無点
 首「当位不当位考」 元表紙曰「当位不当位考 繫辭詳說附
 録」 題簽題「当位不当位考」
- 仁說提綱一卷 太田元貞公幹著 寛政三年三月成書同年以降伊
 藤忠岱写本 全一冊 165
- 二十七・五×十九・〇 十二行二十字注文小字双行 有凶
 句点 眉注書入
 首「仁說提綱」／日本 加賀 太田元貞公幹著 次太田元貞
 〔跋〕末曰「戊申（天明八年）三月十二日元貞書於東都春草
 堂」 次「附四位及性命道德品彙図」末曰「東都後学加賀太
 田元貞図」 次太田元貞〔跋〕末曰「丁未（天明七年）八月
 二十九日元貞于埼玉正覚院」又曰「此本多謬誤未為定說也吾
 党之士看以為難助可也」辛亥（寛政三年）正月下澣 春草堂
 主人 封面題「仁說提綱」 表紙曰「仁說提綱」
- 尚書纂疏十二卷 太田元貞公幹著 文化十三年六月伊藤忠岱写本
 全十二冊 144

- 二十七・〇×十九・〇 十二行二十字 眉注書入 朱傍線
朱句点
- 首「尚書纂疏／日本 加賀 太田元貞公幹著」 以下至卷十
二（卷六題作「尚書」、第九題作「古文尚書」） 一部卷末有
書寫日付 元表紙曰「尚書孔伝纂疏」 題簽題「尚書纂疏」
- 書經聞書十五卷 太田錦城先生講說 文政五年十二月至同七年六
月伊藤祐義忠岱筆記並写本 全十五冊 188
- 二十七・一×十八・六 六行十五字注文和文十二行二十六字
内外 傍注 眉注書入
- 首「書經聞書 〈文政五年壬午十二月二日／太田錦城先生講
說〉／尚書序 信濃 伊藤祐義忠岱」 次「尚書〈錦城太田
先生講說 伊藤祐義筆記／文政五年壬午十二月七日〉」 次
「書經聞書卷二〈文政五年十二月二十二日〉／錦城太田先生
講說／伊藤祐義忠岱筆記」 以下至卷十五 一部卷頭有講義
日付 末曰「文政五年午十二月朔日開講同七年六月十二日終
講無一席之闕會筆記焉小子遲鈍而聞於先生之雄辨多所遺漏此
記唯蓋其心力之所及而已矣」 元表紙曰「書經聞書」 題簽
題「書經聞書」
- 梅本增多原四卷附錄一卷 太田元貞公幹父著述 文化十二年八月
年至同十五年三月伊藤忠岱写本 全四冊 145
- 二十七・一×十八・七 十二行二十一字内外注文小字双行
朱傍線 朱句点
- 首「梅本增多原／附錄」 次「梅本增多原／加賀 太田元貞
公幹父著述」 以下至卷四（卷四卷数表記無） 卷一末曰「伊
藤大助藤原祐義謹写／文化十四年丁丑九月二十三日從于国至
江戸寓淺草北馬道三輪東朔先生之許同二十七日訪於錦城先生
借其著書而写始同十一月二十六日終此間將刊傷寒論張義故無
閑暇由是經數日而功成矣」 卷二末曰「文化十五年戊寅三月
十五日為彫刻傷寒論張義定本至江都寓淺草北馬道三輪東朔先
生之許同十八日写始四月七日写畢其間或為刊行奔走南北又詣
江嶋之辨財天還拜鶴ヶ岡八幡宮尋鎌倉之旧蹟探金沢之風景若
至池田霧溪先生聽痘科鍵之講說又遊杉本樗園先生之塾会誦瘟
疫論而聞先生之批評判断亦侍太田錦城先生聽左伝周易詩經孟
子論語其家之詩稿之辨說故夙夜勤而終矣／伊藤大助藤原祐
慶」 卷三末曰「伊藤大助謹書／文化十四年十二月二日始同
十日終」 卷四末曰「文化十二年八月十六日至武州本庄借尾
陽人糟谷氏之藏書十八日始九月八日終其間罹微疾措筆頗十余
日故如斯經日矣」 元表紙曰「梅本增多原」 題簽題「梅本

增多原

壁經辨正六卷 太田元貞公幹著述 文化十五年四月至文政元年九月

月伊藤忠岱写本 全六冊 146

二十七・〇×十九・〇 十二行二十二字 無点

首「壁經辨正卷之一／目次」次「壁經辨正卷之一／日本加

賀 太田元貞公幹著述／尚書古文同異考」以下至卷六 卷

五末曰「文政紀元丙寅九月二十八日癸卯國而寓京橋壹町目新

道是十月十一日也同十二日訪錦城先生借此書同二十四日書写

成矣／伊藤大助藤原祐慶」他一部卷末有書写識語 題簽題「壁

經辨正」

教説〔癸〕揮一卷 太田元貞公幹著 文政二年一月伊藤忠岱写本

全一冊 159

二十六・六×十九・七 十二行二十二字 朱句点 朱傍線

首「教説教揮／日本 加賀 太田元貞公幹著」(末曰「寛政乙

酉夏五月朔加賀太田元貞公幹書」又有「説皆川伯恭名疇」末

曰「文政二年己卯正月二十五日写始二月三日終／伊藤大助藤

原祐義謹写」元表紙曰「教説發揮」 題簽題「教説發揮」

稽古録即詩經辨説一卷附録一卷 太田元貞公幹著 文化元年十一

月伊藤忠岱写本 全二冊 稽古録之一 147

二十七・〇×十八・五 十一行二十二字 朱傍線 朱句点

首「稽古録／詩經辨説／加賀 太田元貞公幹著」次「附録」

末曰「文化紀元戊寅十一月八日写始同十七日未明終此時指厥

兮温之鴉克明壳奥之呼声過戶外／伊藤大助藤原祐義」元表

紙曰「詩經辨説」 題簽題「詩經辨説」

詩經纂疏十卷(卷七闕) 附三卷 太田元貞著 文化十一年十二月

至同十二年五月伊藤忠岱写本 十三冊 148

二十六・九×十八・八 十二行二十字注文小字双行 有図

無点

首「詩經纂疏卷一／日本加賀太田元貞公幹著」以下至卷十

(卷七闕)卷二以下卷題作「毛詩」 卷一末曰「文化十二年

五月四日五日写之於上野倉賀野之客屋者也」他卷末有書写識

語 次「附録」(表紙題)末曰「文化十二年五月六日七日八日

三日写之於上／州倉賀野之客屋」元表紙曰「詩經毛詩纂疏」

題簽題「詩經纂疏」

多稼軒詩經講說記聞(存卷一、三、七至九) [大田錦城講説]

文政三年四月伊藤忠岱写本 五冊 190

二十七・〇×十八・七 六行十二字注文和文行間細字

首「多稼軒詩經講說記聞卷之二 以下至卷九 卷末有書写

日付 元表紙曰「詩經記聞」 題簽題「詩經記聞」

論語大疏二十卷 太田元貞公幹輯 文化十一年八月至同十二年十

毛詩聞書二十卷 〔大田錦城講說〕 文政五年二月至同六年十一

一月伊藤忠岱寫本 全十六冊 150

月伊藤忠岱寫本 全二十冊 189

二十六・六×十八・八 十二行二十一字 朱句点

二十七・一×十八・六 十一行二十五字内外和文 無点

首「論語大疏卷之一／日本 加賀 太田元貞公幹輯」 以下

首「毛詩聞書」 以下至卷二十 卷末有書寫日付 元表紙曰

至卷二十 卷二末曰「文化十一年八月二十四日寫始同九月四

「詩經聞書」 題簽題「詩經聞書」

日夜畢此一編於上州倉賀野新町之旅宿寫之／伊藤大助藤原祐

三緯微管編三卷 太田元貞公幹父著述 文政元年十一月伊藤忠

慶「他一部卷末有書寫日付 元表紙曰「論語大疏」 題簽題

岱寫本 全一冊 162

「論語大疏」

二十七・二×十八・七 十一行二十一字注文小字双行 朱句

論語聞書二十卷 太田錦城講說 伊藤祐義筆記 文政三年九月至

点

同五年十一月伊藤忠岱筆記並寫本 全二十冊 192

首「三緯微管編卷之一／加賀 太田元貞公幹父著述」 以下至

二十六・八×十八・五 六行十二字内外注文和小字双行二

卷三 卷三末曰「文政紀元戊寅十一月二十一日始十二月朔日

十四字内外 無点

之夜丑刻終此時四隣寂寥唯擊拆告時與街頭之狗声而已也 伊

首「論語聞書〔文政三年九月十七日開講〕／錦城太田先生說

藤大助藤原祐慶」 題簽題「三緯微管編」

伊藤祐義筆記／学而第一」 以下至卷二十 本文中有講義日

左氏伝標註二卷 太田元貞著 伊藤忠岱寫本 全二冊 149

付又一部卷末有書寫日付 元表紙曰「論語聞書」 題簽題「論

二十七・一×十八・八 十二行二十字 句点

語聞書」

首「左氏伝標註／日本 加賀 太田元貞公幹著」 次「左伝

論語国字解即論語聞書二十卷 太田錦城講說 伊藤祐義筆記 文

杜註纂疏標註／日本 加賀 太田元貞公幹著」 題簽題「左

政三年九月至同五年十一月伊藤忠岱筆記並至六年二月寫本 全

傳杜註糾謬」

二十冊 194

- 二十六・六×十九・〇 卷一、十二行二十六字内外 自卷三
六行十四字内外注文和文小字双行二十六字内外 眉注 傍注
返点
- 首「論語国字解（文政三年九月十七日開講）／太田錦城先生
講説 伊藤祐義忠岱筆記／撰者」 次「論語聞書二」 以下
至卷二十 一部卷頭有講義日付又一部卷末有書写日付 元表
紙曰「論語聞書」 題簽題「論語聞書」
- 論語雌雄章聞書一卷 太田錦城講説 伊藤忠岱写本 全一冊
- 193
二十六・八×十八・七 十行十九字内外和漢混合文 句点
首「論語雌雄章聞書／太田錦城講説／信濃伊藤祐義忠岱筆
記」 題簽題「論語聞書雌雄章」
- 仁辨一卷（論語解）二卷 仁辨 太田錦城講説 小笠原冠山筆記
論語解 闕名 文化十四年八月文政二年二月小笠原冠山筆記文
政二年伊藤忠岱写本 全一冊 164
- 二十七・一×十八・九 十二行二十二字和漢混合文（論語
解）漢文 無点
- 首「仁辨／里仁篇參乎吾道一以貫之章（丁丑八月十七日／多
稼軒講義）」末曰「丁丑八月十八日冠山老人筆記」 次「顏淵
篇顏淵問仁章（戊寅九月二日／多稼軒講義）」末曰「文政己卯
春二月上澣小笠原謙益卿父録于自牧堂南窓下／同年二月二十
五日写始同二十七日終伊藤大助藤原祐義謹書」 次「論語解
学而」 次「為政」 元表紙曰「仁辨」 題簽題「仁説 小
笠原冠山筆記／論語解 学而為政」
- 孟子考一卷 太田元貞公幹著 文化十二年七月伊藤忠岱写本 全
一冊 173
- 二十七・五×十九・二 十二行二十字 朱句点
首「孟子考／日本加賀太田元貞公幹著」末曰「文化十二年七
月自十八日至晦日写之」 元表紙曰「孟子考」 題簽題「孟
子考」
- 孟子精蘊（第一冊闕）（太田元貞著） 伊藤忠岱写本 一冊
- 二十六・七×十九・六 十二行二十二字内外 傍注
首「萬章上」 題簽題「孟子精蘊」又「下」
- 孟子聞書二卷 太田錦城先生講説 須天董齋筆記 須天董齋筆記
伊藤忠岱写本 全二冊 205
- 二十六・六×十八・七 十二行二十四字内外和文
- 首「孟子聞書卷一 四月二日初／太田錦城先生講説 須天董
齋筆記」 以下卷（二） 元表紙曰「孟子聞書」 題簽題「孟

- 子聞書」又「須天氏」
- 孟子記聞一卷孟子生卒年月考一卷 記聞 錦城太田先生說 生卒年月考 清閻若璩撰 文政三年九月伊藤祐義筆記同十月同写本 全一冊 203
- 二十七・一×十八・九 記聞 八行字数不定注文和小字双行二十九字内外 生卒年月考 十一行二十二字内外 無点
- 首「孟子記聞／錦城太田先生說／文政三年九月十二日」次「孟子生卒年月考序」次「孟子生卒年月考／太原閻若璩撰」
- 末曰「文政三年庚辰十月五日写始同十二月終／伊藤忠岱藤原祐義」元表紙曰「孟子記聞」題簽題「孟子記聞／孟子生卒年月考」
- 孟子聞書十四卷 錦城太田先生講說 伊藤祐義筆記 文政三年九月伊藤祐義筆記文政五年至六年同写本 全十四冊 204
- 二十七・二×十八・八 六行十四字和文注文十六行二十四字 無点
- 首「孟子聞書／錦城太田先生說 伊藤祐義筆記／孟子 文政三年九月十二日開講」以下至卷十四 一部卷末有書写日付元表紙曰「孟子聞書」題簽題「孟子聞書」又「錦城先生講說」
- 大學聞書一卷 錦城太田先生講說 伊藤忠岱写本 全一冊 195
- 二十六・七×十八・七 十二行二十六字内外和文 無点
- 首「大學聞書 錦城太田先生講說」元表紙曰「大學聞書」題簽題「大學聞書」又「錦城太田先生」
- 大學聞書一卷 太田錦城先生講說 伊藤忠岱写本 全一冊 196
- 二十六・八×十九・一 十行二十五字内外和文 無点
- 首「大學聞書」元表紙曰「太田錦城先生講說／大學聞書」題簽題「大學聞書」
- 大學考一卷 太田元貞公幹著 文化十二年五月伊藤忠岱写本 全一冊 198
- 二十七・一×十八・八 十二行二十字内外 無点
- 首「大學考／日本 加賀 太田元貞公幹著」末曰「文化十二年五月自九日至十一日写之」表紙曰「大學考」題簽題「大學考」
- 中庸聞書四卷 錦城太田先生講說 伊藤祐義筆記 「文政四年筆記」文政十二年七月伊藤忠岱写本 全四冊 200
- 二十七・〇×十九・〇 六行十五字内外注文和小字双行二十四字内外 無点
- 首「聞書」次「中庸聞書卷壹／錦城太田先生講說／信濃伊

藤祐義忠岱筆記」 以下至卷四 末曰「文政十二年己巳七月

全二冊 199

清書／蓼山伊藤祐義」 元表紙曰「中庸聞書」 題簽題「中庸聞書」 又「太田錦城先生講說」

二十七・六×十九・一 十二行二十一字 朱句点
首「中庸考艸／加賀 太田元貞公幹著」 以下卷〔下〕末曰

中庸聞書一卷（他八種合収） 太田元貞公幹著 170

*前掲『足利学校蔵本…』参照。

「此書者太田錦城先生之著述也文化十一年八月十八日始而二十三日畢」 元表紙「中庸考」 題簽題「中庸考」

中庸原解三卷 太田元貞才佐学 文政五年十一月伊藤忠岱写本 全三冊 178

荀子聞書四卷 卷一 錦城太田先生講說 自卷二 太田晴軒先生講說 卷一三四 伊藤祐義筆記 卷一 海保尚賢筆記 文政四年九月伊藤忠岱海保尚賢筆記伊藤忠岱写本 全三冊 213

二十六・七×十八・六 十二行二十四字内外注文小字双行句点

二十五・九×十八・八 十二行二十四字内外和文 無点
首「荀子聞書 文政四年己九月／錦城太田先生講說／伊藤祐義忠岱筆記」 次「荀子聞書／太田晴軒先生講說／上総海保尚賢筆記」 次「荀子聞書／太田晴軒先生講說 伊藤祐義忠岱筆記」 以下〔卷四〕 元表紙曰「荀子聞書」 題簽題「荀子聞書」

首「中庸原解卷之二／加賀太田元貞才佐学」 末曰「文政五年壬午十一月二十三日癸信州十二月五日冒雪至江戸寓湯嶋天神下松平但馬守様之邸舍同十四日請原本十五日写始同二十一日終／伊藤祐義仲岱書之」 以下至卷三 一部卷末有書写日付

次「中庸原解序」 末曰「文政五年十二月二十五日之霄写始六年癸未正月二日終／伊藤祐慶忠岱写之」 元表紙曰「中庸原解」 題簽題「中庸原解」

中庸考一卷（他八種合収） 錦城先生講說 170

老子經即老子妙噉二卷 太田元貞 文政元年五月成書文政元年十二月伊藤忠岱写本 全二冊 174

*前掲『足利学校蔵本…』参照。

点 傍注書入
二十六・九×十九・〇 十二行二十一字注文小字双行 朱句

中庸考艸二卷 太田元貞公幹著 文化十一年八月伊藤忠岱写本

首「老子經／日本加賀太田元貞公幹」 第一章末曰「文政元

年五月端午元貞識昨日改元之始(詔)下于閩左諸州」以下

下 末曰「文政紀元戊寅十二月八日写始昼為業奔走夜間畢功矣時十四日未明鷄告明開戶殘星二三寒風撲面遠四手駕籠之過

矣/伊藤大助藤原祐慶」 元表紙曰「老子經」 題簽題「老子妙嫩」

老子聞書四卷 太田錦城講說 伊藤祐義筆記 文政十一年十二月

至十二年一月伊藤忠岱写本 全四冊 207

二十六・三×十八・二 六行十五字注文和文小字双行十八字

無点

首「老子聞書卷之一/錦城太田先生講說/信濃伊藤祐義忠岱

筆記/三月十一日」 以下至卷四 卷四末曰「文政己丑(十

二年) 正元日伊藤祐義忠岱筆記」他各卷末有書写識語 元表

紙曰「老子聞書 錦城太田先生講說」 題簽題「老子聞書」

又「錦城太田先生講說」

老子聞書四卷 太田錦城講說 伊藤祐義筆記 文政十二年一月伊

藤忠岱写本 全四冊 209

二十七・〇×十九・二 六行十二字注文和文小字双行二十四

字 眉注

首文政十二年伊藤祐義「老子聞書序」末曰「文政己丑(十二

年) 正元日/伊藤祐義忠岱記」 次「老子聞書卷一/錦城太

田先生講說/信濃伊藤祐義忠岱(筆/記)」 以下至卷四 元表紙曰「老子聞書」 題簽題「老子聞書」

老子聞書一卷 太田錦城講說 海保尚賢筆記 文政六年六月伊藤忠岱写本 全二冊 208

二十七・二×十八・六 十二行二十四字内外和文 無点

首「老子聞書/錦城太田先生講說 海保尚賢筆記」末曰「文

政六年癸未六月十四日十五日十六日写」 元表紙曰「老子聞

書」 題簽題「老子聞書」

大田晴軒(太田/敦・芝山)

晴軒先生文集(他八種合収) 伊藤忠岱写本 170

*前掲「大田錦城」項『中庸聞書』参照。

左伝聞書九卷(卷一至四闕) 太田晴軒先生講說 天保二年八月

伊藤忠岱写本 五冊 191

二十六・五×十八・七 六行十五字内外注文和文小字双行字

数不定 眉注 傍注

首「左伝聞書 宣公/太田晴軒先生講說 武舍忠貞記/伝十

三年…」 以下至卷九末曰「天保二年辛卯八月於摂州大坂御

城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之／伊藤祐義忠

五月伊藤忠岱写本 全二冊 212

岱書 元表紙曰「左伝聞書」 題簽題「左氏伝聞書」

二十六・七×十八・七 十二行二十一字内外

孟子考證二卷 〔太田晴軒編輯〕 伊藤忠岱写本 全二冊 176

首「呂氏春秋聞書卷一／太田晴軒先生講說／門人海保尚賢筆記」 以下〔卷二〕 卷一末曰「文政七甲申五月下旬写」 元

首「孟子考證卷一」 次「孟子考證卷之下／芝山晴軒先生編輯」 元表紙曰「孟子考證」 題簽題「孟子考證」 又「晴軒

老子聞書（他人種合収） 晴軒芝山先生講說 伊藤祐義筆記 170

先生」

表紙曰「呂氏春秋聞書」 題簽題「呂氏春秋聞書」

孝經引證一卷 晴軒太田敦纂輯 伊藤忠岱写本 全一冊 172

老子全解稿本三卷 芝山晴軒著 伊藤忠岱写本 全三冊 177

二十六・六×十八・六 十二行二十五字 傍線 句点

首「孝經引證／晴軒太田敦纂輯」 元表紙曰「孝經引證」 題

荀子聞書四卷 213

口 朱句点

*前掲「大田錦城」項『荀子聞書…』参照。

首「老子全解稿本卷之一／芝山晴軒著」 以下至卷三 題簽

呂氏考證（存卷一至二十一） 太田晴軒著 伊藤忠岱写本 全三

題「老子全解」

冊 157

寫本 全四冊 215

二十六・九×十八・七 十二行二十字内外 朱句点 送返点

首「莊子聞書／晴軒太田先生講說 下総海保尚賢筆記」 末曰

首「呂氏考證卷一／太田晴軒著」 以下至卷二十一 元表紙

曰「文政七年甲申三月八日九日写之」 以下〔卷四〕 元表紙

曰「呂氏春秋考證」 題簽題「呂氏春秋考證」

曰「莊子聞書」 題簽題「莊子聞書」

呂氏春秋聞書二卷 太田晴軒先生講說 海保尚賢筆記 文政七年

莊子聞書外篇十卷 太田晴軒講說 海保尚賢（卷一至三）・渡辺思

文政七年

文政七年

文政七年

文政七年

文政七年

文政七年

文政七年

文政七年

順(卷四至六)・伊藤祐義(卷七至十)筆記 伊藤忠岱寫本 全

十二 印記「定」

十冊 216

二十六・四×十八・八 七行十五字内外注文和文十三行二十

全三冊 158

七字内外 無点

二十六・六×十八・七 十二行十九字内外注文小字双行 朱

首「莊子聞書外篇／駢拇(芝山晴軒太田先生講說／上総海保

句点

尚賢筆記)」。以下「卷十」(卷四編著者事項曰「芝山晴軒先

首「莊子考證／芝山晴軒著」次「莊子知解／日本 太田晴

生講說／渡辺思順筆記」、卷七編著者事項曰「太田晴軒先生

軒著」以下「卷二」(卷一)末曰「文政七年甲申二月写

講說／伊藤祐義忠岱筆記)」。元表紙曰「莊子聞書 駢拇篇

之」元表紙曰「莊子考證」題簽題「莊子考證」印記「仰」

壹」等 題簽「莊子聞書(外篇／駢拇)壹」等 印記「定」

列子聞書二卷(存卷上) 晴軒太田先生講說 伊藤祐義忠岱筆記

莊子聞書十四卷(卷一至十一闕) 晴軒太田先生講說 伊藤祐義

並写本 一冊 218

筆記 文政十二年伊藤忠岱寫本 三冊 217

二十六・三×十八・三 十二行二十五字内外和文 無点

二十六・〇×十八・七 七行十三字内外注文和文十二行二十

首「列子聞書卷上(五月十一日講說始)／晴軒太田先生講說

六字内外 句送返点

／伊藤祐義忠岱筆記」元表紙曰「列子聞書 晴軒太田先生

首「庚桑楚(晴軒太田先生講說／伊藤祐義筆記)」末曰「文

講說」題簽題「列子聞書」又「晴軒太田先生講說」

政十二年丑十月十二日江戸二出十五日ノ夜同十八ノ日ノ夜聞

列子聞書七卷 太田晴軒先生講說 伊藤祐義筆記 伊藤祐義忠岱

終ハル同十二月六日七日八日三日ニ清書」次「徐無鬼」次

筆記並写本 全七冊 219

「則陽／(晴軒太田先生講說／伊藤祐義筆記)」末曰「文政十

二十六・四×十八・九 六行十六字注文和文小字双行二十五

二年丑年十月二十六日七日聽聞之同十二ノ月朔日二日清書」

字内外 傍線 句送返点

元表紙曰「莊子聞書 庚桑楚」題簽「莊子聞書(庚桑楚)

首「列子聞書卷之一／太田晴軒先生講說／信濃伊藤祐義忠岱

筆記」 以下至卷七 題簽題「列子聞書」

太田晚成（大田）

孝經聞書二卷 晚成太田先生講說 川口昌藏筆記 文政十二月

年伊藤忠岱寫本 全一冊 171

二十六・一×十九・四 十二行二十三字注文和文小字双行

無点

首「孝經聞書（晚成太田先生講說）全」 次「孝經聞書／晚

成太田先生講說／門人信濃川口昌藏筆記」 次「孝經／開察

明■」末曰「文政十二年己丑五月下旬自川口氏得之写／鹿里

伊藤忠岱藤祐義書」 封面題「孝經聞書」 又「晚成太田先生

講說」 又有細注書入 題簽題「孝經聞書」 又「晚成太田先生

講說」

老子二卷 太田晚成先生講說 文政四年三月伊藤忠岱寫本 全

二冊 210

二十六・八×十九・〇 八行十六字相当注文和文小字双行二

十八字内外 無点 傍注書入

首「老子／太田晚成先生講說筆記」 以下〔卷二〕 卷一末

曰「文政四年三月十四日写始同二十六日終此時浴別所之温泉

寓岡田主水子之寓居而写之」 元表紙曰「老子道德經」 題

簽題「老子聞書」

荻野元凱（荻・源／台州）

眼疾編一卷（他一種合収） 源元凱著 文政十二年伊藤忠岱寫本

全一冊 135

二十六・八×十九・一 十一行十八字内外 句点

首「土生家伝方／東都侍医眼科土生玄碩著」 次「眼疾編／

台州源元凱著」末曰「文政十二年仲秋写伊藤祐義忠岱書之」

元表紙曰「土生家蔵方／眼科伝書」 又封面曰「眼疾篇 荻

台州先生著述 全」 題簽題「眼科伝書 土生氏著述／眼疾

篇 荻台州著述」

刺絡編一卷 荻元凱著 木村恒徳・林鼎校 寛政十一年伊藤忠岱

写本 全一冊 120

二十四・八×十五・八 八行十三字内外 無点

首「刺絡編／日本北陸荻元凱子元著」末曰「于時寛政十二己

未歳三月廿三日於于上州羣馬郡倉賀野写之／伊藤潜竜斎／藤

祐慶」 表紙曰「荻先生刺絡編」

吐法編一卷 荻凱著 寛政十年伊藤忠岱寫本 全一冊 122

二十五・〇×十七・二 八行十三字内外 無点

首「吐法編／日本方廣北陸／荻凱著」末曰「右書寛政十戊午

年十月十一日写／始同十五日晚畢／伊藤潜竜齋／藤祐慶

封面題「吐法編」又「荻先生著」

方選一卷台州先生医談一卷 方選 闕名 医談 台州先生 伊藤

忠岱写本 全一冊 127

二十六・九×十九・二 十行二十一字 無点

首「方選」 次「台州先生医談」 元表紙曰「方選 橋本氏

藏／荻台州先生医談」 題簽題「方選 橋本氏藏／荻台州先

生医談」

方鈴丸散部一卷（他一種合収） 「荻野元凱」 寛政十一年伊藤

忠岱写本 全一冊 85

二十四・五×十五・六 六行十二字 眉注朱書入 朱句点

首「回生録」 末曰「山脇格叔光識」 次「死胎八例」 次寛

政十一年伊藤潜竜齋藤祐慶「識語」（…寛政十一巳未歳三

月廿八日上州碓井郡中宿首藤寿圭得授伝而板鼻馱而写之／

伊藤潜竜齋／藤祐慶） 次「方鈴 丸散部」 末曰「寛政十

一巳未歳三月廿四日於上州群馬郡倉賀野馱医生長雄道齊家

枚禁書請受写之 伊藤潜竜齋／藤祐慶」 元表紙曰「賀川家

秘術／山脇先生回生録」又有別封面「諸家禁方／丸散部」 題

簽題「賀川子玄子回生録／荻氏丸散方鈴」

奥劣齋

回生鉤胞秘訣一卷附録一卷 奥劣齋口授 伊藤忠岱写本 全一冊

89

二十六・九×十九・一 十一行二十字一部和文 句点

首「回生鉤胞秘訣／奥劣齋口授」 次「附録治驗／奥劣齋口

授」 題簽題「回生鉤胞秘訣」

産科啓秘一卷 奥劣齋口授 伊藤忠岱写本 全一冊 86

二十六・六×十九・一 十行二十四字内外和文 無点

首「産科啓秘／平安奥劣齋先生口授」

産法秘伝書一卷（他一種合収） 奥劣齋口授 伊藤忠岱写本 全

一冊 87

二十六・六×十九・一 十行二十一字 句点

首「回生録」 次「産法秘伝書／奥劣齋先生口授」 題簽題

「加川氏回生録附奥氏伝書」

達生園方穀二卷 「奥劣齋」 柴原順・山成巖等輯 天保二年伊

藤忠岱写本 全一冊 90

二十六・七×十九・二 十行二十字注文小字双行 無点

首「目錄」 次（奥）劣齋「達生園方穀／例言」 次「達生

園方穀／門人一加賀 柴原順子敬／備中 山成巖子恭」同輯」

次簸川「題辭」次「摂生堂方轂／門人」西薨 筒井文敬子

元表紙曰「産論纂註」 題簽題「産論纂註」

直／前筑 前田玄子尚一同輯」末曰「天保二年辛卯十一月

子玄子産論（四卷）賀川玄悦著 寛政十年伊藤忠岱写本 全二

於摂州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写

冊 92

伊藤祐義書」元表紙曰「達生園方轂」 題簽題「達生園方

二十四・二×十五・二 八行十四字内外 句送返点

轂」

首「子玄子産論／皇和近江州彦根賀川玄悦（子玄）著／（男

海保尚賢

玄迪子啓／門人山口格叔光 全校／孕育」次「古房」末曰

性善性惡並行不相悖辨（他八種合収） 海保尚賢 170

「右之書ハ寛政十戊午年二月四日小諸書籍屋より持来り難

*前掲「大田錦城」項『中庸開書』参照。

尽而同七日写畢／伊藤潜竜斎／藤原祐慶」次「已婉」末曰

賀川玄悦（加川／子玄）

「右三書ハ皇和寛政十戊午年二月四日筆立同九日書畢／伊藤

回生録一卷（他一種合収） 加川氏 87

潜竜斎／藤原祐義」

*前掲「奥劣斎」項『産法秘伝書』参照。

香川修庵（修徳・大沖）

回生録一卷（他一種合収） 賀川子玄 85

一本堂葉選十卷 香川修徳撰 伊藤忠岱写本 全十冊 27

*前掲「荻野元凱」項『方鈴丸散部』参照。

二十三・八×十五・四 八行十二字 無点

産論纂註三卷 賀川子玄 全三冊

首「一本堂葉選凡例」次「葉選目次」次「一本堂葉選上

101

編卷之一／香川修徳大沖父著」以下至卷十（卷六作「一本

二十六・八×十八・七 十行二十一字内外一部和文注文小字

堂葉選附録」表紙曰「一本堂葉選」

双行 無点

香川氏灸点図解一卷 〔香川修庵〕 伊藤忠岱写本 全一冊 29

首「産論纂註」（末題「子玄子産論卷二」）以下至卷三 末

二十六・八×十九・一 十行二十三字内外 有図 句点

曰「天保八年丁酉四月ヨリ至五月写終／鹿里伊藤忠岱祐義」

首宝曆六年香川興「題灸点図解首」次宝曆六年「灸点図解

凡例」次「定大権則」等 題簽題「香川氏灸点図解」

賀川有齋

賀川有齋口訣並手術解一卷 産術伝書一卷 (賀川有齋著述) 中

山元治撰 享和四年伊藤忠岱写本 全二冊 81

二十五・〇×十七・三 十二行二十二字内外和文 無点

首「賀川有齋子口訣並手術解／門人中山元治撰」次「栢子

二押へ居へ：／禁暈 寛政元年中山原政撰」次「皇都

／賀川有齋子／産術伝書内編」(封面) 次「逐月養胎之説：」

次「中山道齋先生校正／順産回生並十六法」末曰「右之書は

上毛中宿須藤寿圭より借り受写置ものなり／享和四甲子年元

旦 伊藤大助」元表紙曰「賀川有齋子著述／産術伝書外編」

題簽題「産術伝書外篇」

賀川有齋子産科口訣並手術解二卷 (賀川有齋) 中山元治記 伊

藤忠岱写本 全二冊 95

二十六・七×十九・一 十行二十三字内外和文 無点

首「賀川有齋子産科口訣並手術解／門人中山元治記」次「賀

川有齋子産科口訣並手術解／門人中山元治記」 題簽題「産

科口訣 外篇」

賀川蘭齋

賀川産術秘要二卷許可秘要一卷 賀川蘭齋口授 伊藤忠岱写本

全一冊 88

二十六・九×十九・二 九行二十五字内外和文 無点

首「賀川産術秘要／外術」(末題「外伝辨」) 次「内伝」(末

題「内術」) 次「賀川蘭齋先生口授免許秘録／目次」次「許

可秘要／平安賀川蘭齋先生口授」元表紙曰「賀川産術秘要」

題簽題「賀川氏産術秘要」

葛西因是

道德経二卷 葛西氏 文化十年二月伊藤忠岱写本 全一冊 179

二十七・七×十九・〇 六行六字注文朱墨眉傍注 朱句点

首文化十年伊藤監「弁言」又有伊藤祐義略歴 次「道德経／

第一章」次「道德経／第三十八章」末曰「文化十癸酉年二

月二十八日自未刻至申刻写此一卷信不輟筆而畢者也」元表

紙曰「道德経」 題簽題「老子道德経」又「葛西氏」

加藤氏

腹候伝一卷附録一卷 (加藤氏) 伊藤忠岱写本 全一冊 126

二十六・八×十八・八 十行二十六字内外和文 無点

首「腹候伝」次「附録加藤氏診察伝」 奥書「安永戊戌三

月二十六日 豊山居士書／天明元年：／天明二年：／文政七

年：「原真庵書」 元表紙曰「腹診伝」 題簽題「腹候伝（淺

古今方考一卷 鬼島煥著述 寛政九年伊藤忠岱写本 全一冊

井家秘訣／加藤氏腹候伝」

106

加門隆徳

二十五・七×十五・九 八行十六字内外 無点

柚木流眼科秘録一卷同秘伝書一卷 秘録 〔加門隆徳口授 倉内

首天明元年里吉允「古今方考序」 次鬼島煥「古今方考自序」

直筆記） 秘伝書 〔柚木太淳述・加藤隆徳編） 伊藤忠岱写

次深見徳至厚（題） 次「古今方考 卷ノ一／日本南総鬼島

本 全二冊 139

煥子昺著述」末曰「寛政九丁巳年十一月廿六日筆ヲ立初同廿

二十六・九×十八・七 二十四行字数不定和文 有図 無点

八日書畢／伊藤潜竜斎／藤原祐慶」 表紙曰「古今方考」

首「柚木流眼科秘録／凡例」 次〔図） 末有「右讃州何田

類聚方標註集覽一卷 雉間煥標注 雉間適校 伊藤忠岱写本 全

山子伝」 次「柚木流眼療秘伝書」 以下「洗薬ノ効能」、「加

一冊 105

門家点洗ノ秘方」、「眼療目薬上之卷」 次「眼繪並治法中ノ

二十五・二×十七・二 十一行内外十六字 無点

卷」 次「眼療内薬方下ノ卷」 元表紙曰「柚木流眼科秘録

首享和三年雉間煥「類聚方集覽標註序」 次「類聚方標註集

上」 題簽題「柚木流眼科秘録」

覽／日本南総雉間煥子炳（標／註）／男適子適撰」 次〔跋〕

河口信任

封面題「類聚方標註集覽」 表紙曰「類聚方集覽標註序」

解屍編一卷 河口信任 伊藤忠岱写本 全一冊 125

〔古賀朝陽〕

二十四・八×十五・六 八行十二字内外 有図 無点

老子聞書四卷 朝陽氏 天保四年八月以降伊藤忠岱写本 全四冊

首「解屍編／古河医官河口信任遠著」 次「同觀姓氏／余浚

211

明夙夜 平安人ノ：（全七氏） 次「肯筆之図」 封面題「解

二十六・七×十八・三 六行十五字注文和文小字双行二十六

屍編」又「台州園隨／筆之三」 題簽題「荻先生解屍編」

字内外 句送返点

雉間煥（鬼嶋）

首「老子聞書（天保四年癸巳四月九日十日開講）」 以下至

卷四 卷頭有講義日付 元表紙曰「老子聞書」 題簽題「老子聞書」又「朝陽氏」

後藤良山

異人秘授五極一卷(他一種合収) 後藤良山著 文化元年伊藤忠

岱写本 全一冊 23

二十五・三×十七・三 十一行二十字 無点

首「真嶋流眼科伝」 末曰「右之書ハ真嶋四十九代厚入道露

伯の秘書なり」又「于時文化元甲子年十月廿一日下野国都賀

郡小山駅高橋安亭なる人ニ借り受写もの也／伊藤代助」 次

「異人秘授五極／後藤良山著」 末曰「右は文化元甲子年十

月廿四日下野国都賀郡小山駅高橋安亭なる人秘蔵の書なり

■傳受して写もの也／伊藤代助」 元表紙曰「真嶋家／

唯一伝)眼科秘録」 別有「後藤良山先生／万病灸灼治方」

五極穴伝」 題簽題「真嶋家眼科伝／後藤家五極灸」

後藤省(仲介)

一家稿一卷 後藤省仲介父著 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊

25

二十六・九×十九・四 十行十八字 無点

首「一家稿／後藤省仲介父著」 末曰「天保二年辛卯季冬於

摂州大坂御城内東御小屋松平但馬守様御在番中写之」 題簽
題「後／藤」一家考」

坂口氏

〔坂口氏金療療方〕一卷 〔坂口氏〕 〔伊藤宗周〕写本 全一

冊 227

二十五・一×十六・九 八行字数不定 無点

首無題(金療療治の次第) 表紙曰「坂口氏金療療方」

新宮涼庭(驅豎齋・碩)

〔驅豎齋方府〕一卷方府口訣五卷 方府 〔新宮涼庭〕 口訣 驅

豎(豎)齋先生口授 河野孝伯政輯 新宮涼哲為校 伊藤忠岱

写本 全一冊 114

二十六・九×十九・三 十行内外十九字内外 無点

首「驅豎齋／催蒸劑」 次「方府口訣卷之一／驅豎齋先生

口授 〔河野孝伯政輯／新宮涼哲為校〕／催蒸劑」 以下

至卷五 封面題「驅豎齋方府」 別有「方府口訣」 別有「驅豎

齋方府口訣」 題簽題「方府口訣」

痢論一卷痢疾要領一卷 新宮碩涼庭著 天保二年伊藤忠岱写本

全一冊 117

二十六・七×十九・三 十二行二十七字内外 無点

水門長庵

首「痢論／丹後小民 新宮碩涼庭著」末曰「文政庚辰（三年）秋七月」次「痢疾要領／附言／：／／目次」次「痢疾要領」末曰「天保二年辛卯十一月：伊藤祐義：」元表紙曰「痢論／痢疾要領」題簽題「痢病論」又「新宮氏」

辨編險證答門一卷 西山砂保問 水門長庵答 天保三年伊藤忠岱

写本 全一冊 136

二十七・〇×十九・二 十行三十一字内外和文 無点

首文政九年抱神堂主人（中川故）〔序〕次「辨編險證答問／

問 雲州 西山砂保／答 江戸 水門長庵」末曰「天保三年

壬辰正月於撰州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在

番中写之／伊藤祐義忠岱書」元表紙曰「新編險證問答 全」

題簽題「新編險證問答」

杉本樗園

温疫考（他五種合収） 樗園主人著 80

*前掲「惠美三白」項『晚成堂吐法私録：』参照。

高野長英（讓・瑞臯）

眼科精要一卷附録一卷〔高野長英〕 天保四年伊藤忠岱写本 全

一冊 102

二十六・七×十八・二 十行二十四字和文注文小字双行 無点

首「眼科精要／目錄」次「眼科精要」次「附録 函説」

（末題「眼科治論書大尾」）末曰「天保四年癸巳十一月於上

州吾妻郡伊勢町柳田鼎藏之環翠軒写之 伊藤忠岱書」元表

紙曰「眼科精要」題簽題「高野氏眼科精要」

眼目窮理篇一卷 高野長英訳 伊藤忠岱写本 全一冊 76

二十七・二×十八・九 十行二十四字内外和文 無点

首「眼目窮理篇／東奥高野長英訳」元表紙曰「眼目窮理篇」

題簽題「眼目窮理篇」

居家備用治術篇十卷（卷五、七闕） 律暹爾独儼説著 高野讓長

英訳 青地盈林宗校 伊藤忠岱写本 六冊 79

二十六・八×十八・三 十行二十五字内外和文 無点

首「居家備用目錄／遠西 暗厄利亜律暹爾独儼説著／日本

高野讓長英訳／青地盈林宗校」次「居家備用／題言」次

「察病法 監病牀質問之」又「肺勞察病法」「治療定則」次

「居家備用治術篇卷之一／遠西 暗厄利亜律暹爾独儼説著／

日本 高野長英訳／青地盈林宗校」以下至卷十（卷五、七

闕）元表紙曰「居家備用」題簽題「居家備用」

産科提要二卷 高野長英訳 天保五年伊藤忠岱写本 全二冊

115

二十七・三×十九・二 十行二十四字内外和文 無点

首「産科提要卷之一／目次」 次「産科提要卷之一／仙台高

野長英訳」 以下卷二 有卷二前有卷二目次 末曰「天保五

年午三月写之／伊藤忠岱書之」 元表紙曰「産科提要」 題

簽題「(和／蘭)産科提要」

総病論一卷医原枢要聞書一卷蘭説聞書一卷 瑞臯高野先生口授

高橋欽景作記 伊藤忠岱写本 全一冊 103

二十六・六×十九・〇 十行二十三字 傍線

首「総病論 原本テラハイエ／瑞臯高野先生口授 門人上毛

高橋欽景作記」 次「附録」 次遠藤玄亮「識語」 次「医

原枢要聞記／瑞臯高野先生講説 高橋景作筆記」 次「蘭説

聞書／高野先生口授 高橋景作筆記」 封面題「総病論」 別

有封面題「医原枢要聞書」 題簽題「高野氏(総病論／医原

枢要聞書)」

平体篇一卷牛痘接法一卷原病発微一卷 平体篇 高野長英先生

著述 山根吾良泰筆記 牛痘接法 高野讓長英述 原病発微

高野讓長英訳述 全一冊 104

二十六・九×十九・一 十行二十五字内外和文注文小字双行

無点

首「高野長英先生著述／長門山根吾良泰筆記／平体篇」 次

「牛痘接法／東奥高野讓長英述」 次「原病発微／陸奥高野

讓長英訳述」 元表紙曰「平体篇」 題簽題「高野氏(平体

篇／牛痘接法)」

田代昌純(三喜齋)

三喜齋秘伝医書一卷金鷄医談拔萃一卷 (田代昌純) 寛政十二

年伊藤忠岱写本 全二冊 107

二十五・〇×十七・一 十行十三字内外和文一部漢文注文小

字双行

首「三喜齋秘伝医書」末有三喜齋「識語」 次「三喜齋先生

伝」末曰「右之書ハ上毛首藤氏藏書なるを請受寛政十二庚申

年七月十五日より十六日両写畢／伊藤大助／藤祐慶」 次

「金鷄医談拔萃」 元表紙曰「三喜齋医訣」

田中栄信

長沙正経證彙二卷 田中栄信編 村尾茂喬等校 寛政九年伊藤忠

岱写本 全二冊 100

二十四・六×十五・四 八行十六字 無点

首「長沙正經証彙上卷目錄」 次「長沙正經証彙／播磨田中

二十四・二×十六・六 八行十五字内外注文小字 無点

栄信愿仲編選／南部村尾茂喬繼選／越後奥田邦憲祐庵／播磨

首「知足齋十九方抄書」 次「知足齋十九方要解／稻葉克書」

菅原成美專輔／同河野教明淳治「同校」 以下卷下末曰「于

次「玉丹」 次「附録／傷寒論厥陰病篇」 次「識語」 末曰

時寛政九丁巳年二月廿三日筆立同三月四日畢伊藤大助藤原祐

「寛政十戊午年九月十五日伊藤大助写之」 元表紙曰「甲斐

慶」 卷下前有目錄 表紙曰「長沙證彙」

智足齋徳本翁十九方／並蒸之秘方／豊浦元貞傷寒論發明方」

〔朝陽右門〕

中神琴溪（中上／孚・右内）

黙成堂春秋散（他五種合収） 〔朝陽右門〕 80

生々堂聞書一卷 〔中神孚講説 伊藤忠岱筆記〕 享和二年伊藤

*前掲「恵美三白」項『晩成堂吐法私録…』参照。

忠岱写本 全一冊 62

徳見茂四郎

二十六・九×十九・〇 十一行二十字内外和文注文小字双行

〔徳見氏伝方〕（他二種合収） 徳見茂四郎伝 伊藤忠岱写本 全

無点

一冊 63

首「生々堂聞書」 末曰「右春京都堺町四条下中神右内号／

寸法不明 九行十四字和文 無点

生々堂雜記經驗方也／享和二壬戌年九月四日写始同十二日写

首「生々堂方函／傷寒論」 次「吉雄家方」 次無題 末

畢／伊藤代助／写之」 次「悦明長老伝方」等 封面題「中

曰「右長崎徳見茂四郎伝」 元表紙曰「生生堂方函／吉雄

神氏／生々堂聞書」裏有「金瘡妙法…」 表紙曰「生々堂聞

家方／徳見氏伝方」 題簽題「生生堂方函／吉雄家方／徳

書」

見氏伝方」

生々堂方函一卷（他二種合収） 〔中神孚〕 63

豊浦元貞

*前掲「徳見茂四郎」項『徳見氏伝方…』参照。

〔傷寒論發明方〕（他一種合収） 〔豊浦元貞〕 寛政十年伊藤忠

〔中上右内先生秘録〕一卷 〔中上右内〕 天保三年伊藤宗周

岱写本 全一冊 113

写本 全一冊 60

写本 全一冊 60

二十六・九×十九・一 十二行二十字内外和文注文小字双行 傍訓 無点

首「救疝飲 治中腕動疝氣」末曰「天保三年冬十月吉日
／鹿里伊藤宗周写之」 元表紙曰「中上右内先生秘録」 題
簽題「琴溪中川右内家藏方」

二冊 57

二十七・〇×十九・二 十行二十四字内外和文 無点
首「医方新古辨卷上」 以下卷下 末曰「右中川壺山先生著

述也／天保二年辛卯十月於摂州大坂城内玉造口東御小／屋松
平但馬守様御在番中写之／伊藤祐義忠岱書」 題簽題「医方
新古辨」

生々堂傷寒論(存一冊) 中上孚述 享和元年伊藤忠岱写本 一

冊 61

二十六・六×十六・七 十二行二十一字内外和文注文 無点

首「生々堂傷寒論／淡海 中神孚述」末曰「享和元辛酉年十
月二十九日写始同／書畢／伊藤大助／鹿里祐義二十五歳」
元表紙曰「生々堂傷寒論」 表紙曰「生々堂傷寒論 共拾冊」

37

噎膈胃反論一卷 (中川修亭) 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊

二十六・九×十九・三 九行二十字注文小字双行 句点

首文化九年三浦義良「噎膈胃反論序」 次「噎膈胃反論」 末
曰「天保二年辛卯八月大坂御城玉造口東御小屋松平但馬守様
御在番中写之 仰継堂伊藤祐義忠岱」 元表紙曰「噎膈胃反
論」 題簽題「噎膈胃反論」

中川修亭(故・其徳・壺山・定故・抱神堂)

唾科筌蹄一卷 中川故其徳著 伊藤忠岱写本 全一冊 41

二十六・六×十八・六 十二行二十二字内外和文 無点

首「唾科筌蹄／平安中川故其徳著」 元表紙曰「唾科筌蹄」

49

〔歌集〕 (中川定故) 文政七年初秋跋同年以降写本 全一冊

二十六・九×十九・三 十行字数不定和文 無点

首〔序〕 次文政七年中川定故〔跋〕

合病辨解一卷 (中川故) 天保二年序同年以降伊藤忠岱写本 全

医方新古辨二卷 中川壺山先生著述 天保二年伊藤忠岱写本 全

一冊 56

- 二六・九×十九・四 十行二十字内外和文 無点
 首天保二年仲秋中川故「合病辨解」(序) 次「合病辨解」 元
 表紙曰「合病辨解」 題簽題「合病辨解」
 菊圃漫筆一卷 (中川修亭) 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊
 51
 二七・〇×十九・三 十行二十五字内外和文 無点
 首「菊圃漫筆」 末曰「天保二年辛卯九月於撰州大坂御城内
 玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之 伊藤祐義忠岱
 書」 次文化十二年中川さこと「跋」 元表紙曰「菊圃漫
 筆」 題簽題「菊圃漫筆」
 春亭医話二卷 中川故其德著 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊
 58
 二六・九×十九・四 十行字数不定二十五字内外 無点
 首「春亭医話／平安中川故其德著」 以下卷下 次文政十二
 年壺山逸人「跋」 末曰「天保二年辛卯十月於撰州大坂御城
 内東御小屋松平但馬守様御在番中写之／伊藤祐義忠岱書」
 元表紙曰「春亭医話」 題簽題「春亭医話」
 女科筌蹄二卷 (中川修亭) 文政九年跋同年以降伊藤忠岱写本
 全二冊 64
 二六・八×十九・二 十行二十七字内外和文注文小字双行
 無点
 首「女科筌蹄卷上／目錄」 次「序」 次「女科筌蹄下卷目
 録」 次「女科筌蹄卷之下」 次文政九年抱神堂主人「跋」
 元表紙曰「女科筌蹄」 題簽題「女科筌蹄」
 舌診考一卷 中川故其德著 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊
 35
 二六・八×十九・四 十行二十八字内外和文 無点
 首「舌診考／平安中川故其德著」 末曰「天保二年辛卯八月撰
 州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写焉
 伊藤祐義忠岱書」 元表紙曰「舌診考」 題簽題「舌診考」
 長沙微言二卷 中川故其德著 文化十二年伊藤忠岱写本 全二冊
 30
 二七・一×十八・八 十二行二十二字注文小字双行 句点
 首文化十二年近藤守正「長沙微言序」 次文化十二年中川故
 「自序」 文化十二年中川故「附言」 次「目次」 次「長
 沙微言卷之上／平安中川故其德著」 以下卷下 卷下前有目
 次 次文化十二年中川故「識語」 題簽題「長沙微言」
 治芳要訣一卷 (中川故) 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊 28

二十六・九×十九・二 八行二十二字内外和文注文小字双行

年伊藤忠岱写本 全一冊 11

無点

二十六・七×十九・一 十二行二十一字内外和文注文小字双

首文政三年中川故「治勞要訣序」 次「治勞要訣」 末曰「天

行 無点

保二年辛卯九月於撰州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬

首「山田氏伝方 山田寧安貞誌」 次文化十三年中川其德「題

守様御在番中写之 伊藤祐義忠岱書」 題簽題「治癆要訣」

「転翁医譚」 次「転翁医譚／上毛 服部鼎元甫筆記」 次「抱

芳翁医談一卷 (福島) 慎独軒老人談話 中川故其德筆錄 寛政

神堂医話卷六」 末曰「右書者文政三年丙辰二月二十六日七

八年中川故録同年以降伊藤忠岱写本 全一冊 50

寓居于江戸三十間堀壹町目土井東民子之許写焉／伊藤忠岱

二十六・四×十八・〇 十二行二十四字注文小字双行 句点

藤原祐義」 次「鼠毒ノ方」 次寛政五年中川壺山「松浦問

首「芳翁医談／和州芳野 慎独軒老人談話／平安 中川故其

答書序」 次「松浦問答四十五條」 末曰「文政三丙辰年三月

德筆録」 末有「跋」末曰「寛政丙辰(八年)孟秋中元日於

朔日寓江戸三十間堀壹町目土井東民子之宅写焉／伊藤忠岱

紀州橋本僑居撰／平安中川故其德」 題簽題「芳翁医談」

藤原祐義」 題簽題「山田氏口中科書／美濃細野転翁医談／

方極考一卷 中川故其德撰 文政五年伊藤忠岱写本 全三冊

松浦問答」

33

瘍科筌蹄二卷 中川敬其德 文化十二年序同年以降伊藤忠岱写本

二十六・六×十八・五 十二行二十二字和文 無点

全二冊 48

首「方極考／平安中川故其德撰」 次「方極考」 末曰「文政

二十六・六×十八・六 十三行二十一字和文 句点

五年壬午九月七日写始同十三日写終其間自八日至十二日勤

首文化十二年中川敬其德「瘍科筌蹄叙」 次「瘍科筌蹄卷上

他事……」 次「小柴胡湯……」 各末有書写日付 題簽題「方

／目次」 次「瘍科筌蹄卷之上」 以下卷下 卷下有目次

極考」

次「方薬部」 元表紙曰「瘍科筌蹄」 題簽題「瘍科筌蹄」

松浦問答一卷(他二種合収)(中川壺山問 松浦南陽答) 文政三

又「中川修亭著述」

用永談一卷附録一卷〔中川修亭〕 文政十三年成書天保二年伊

藤忠岱写本 全一冊 20

二十六・九×十九・二 十行二十字内外和文 無点

首文政九年中川故「用永談序」 次「用永談」 次「附録」

末曰「文政庚寅秋八月抱神堂主人識／天保二年辛卯九月於撰

州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写焉／

伊藤祐義忠岱書」 題簽題「用永談」

用藥分量略說一卷 壺山録 天保二年成書同年以降伊藤忠岱写本

全一冊 43

二十六・九×十九・三 六行二十四字内外和文注小字双行

無点

首〔序〕 次「用藥分量略說」 末曰「天保第二辛卯歲仲秋念

二日 壺山録」 元表紙曰「用藥分量略說」 題簽題「用藥

分量略說」

六經新論一卷 中川故其德述 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊

54

二十七・〇×十九・四 十行字数不定二十五字内外 無点

首「六經新論／平安中川故其德述」 末曰「天保二年辛卯十月

於撰州大坂城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之

伊藤祐義忠岱書」 元表紙曰「六經新論」 題簽題「六經新

論 傷寒論」

金匱要略衍義二卷 壺山中川先生講說 文政四年跋同年以降伊藤

忠岱写本 全二冊 9

二十六・五×十九・〇 十三行二十四字内外和文 無点

首「金匱要略衍義／壺山中川先生講說」 以下 次文政四

年壺山道人〔跋〕 題簽題「金匱要略衍義」

〔金匱要略聞書〕一卷 中川壺山先生講說 伊藤忠岱写本 全一

冊 7

二十六・六×十八・七 十六行二十八字内外和文 無点

首「金匱要略／平安中川壺山先生講說」 題簽題「金匱要略

聞書」

傷寒厥陰證口決一卷〔他二種合収〕 中川故其德著 文政六年抱

神堂主人録同年以降伊藤忠岱写本 全一冊 16

二十六・四×十八・五 十三行二十五字内外和文注小字双

行 無点

首「傷寒厥陰證口決／平安中川故其德著」 末曰「文政第六癸

未歲孟夏既望／平安抱神堂主人録」 次「南涯先生当附疑途

辨」次「南涯先生痘瘡処剂畧」 題簽題「一厥陰證口決 中

永富独嘯庵

川修亭著述／当附疑途辨 南涯先生著述／痘瘡処剂畧」

〔漫遊雜記技粋〕（他二種合収） 独嘯庵先生 40

傷寒新論一卷 〔中川修亭〕 文政六年序同年以降伊藤忠岱写本

*前掲「伊藤見龍」項『諸百家医書掌中目錄：』参照。

全一冊 26

中西深齋

二十六・九×十九・三 十行二十四字内外和語注解

医方名数解一卷 〔中西深齋〕 伊藤忠岱写本 全一冊 96

首文政六年中川故「傷寒新論序」 次「太陽證」 末有「附

二十五・五×十六・八 八行十三字 無点

考」 題簽題「傷寒新論」

首「医方名数解目次」 次「医方名数解／題名解」 末曰「此

永田徳本（長田／知足齋）

書野沢金子玄三先生ヨリ持来正月廿六日筆ヲ立同廿八日書畢

〔甲斐知足齋徳本翁十九方〕 〔永田徳本〕 113

写主／伊藤潜竜斎／藤原祐慶」 表紙曰「中西傷寒名数解」

*前掲「豊浦元貞」項『傷寒論發明方』：』参照。

中村環中（邑／薪理）

徳本翁救急十九方一卷 長田徳本 伊藤忠岱写本 全一冊 108

梅華無尽蔵纂紛二卷 邑環中薪理輯 文化十三年伊藤忠岱写本

二十四・八×十七・五 六行十六字内外 無点

全一冊 111

首「徳本翁救急十九方」 末有「膏藥主治大略」 題簽題「長

二十六・一×十八・一 十二行二十三字内外和文注文小字双

田徳本翁救急十九方」

行 無点

〔長田徳本翁伝十線香方〕 長田徳本 伊藤忠岱写本 全一冊

首「梅華無尽蔵纂紛／目錄卷上」 次天明三年邑環中薪理「自

109

二十四・九×十七・四 六行十三字 句返点 有図

序」 次「例言」 次「梅華無尽蔵纂紛卷之上／武陽 邑環

首「知足齋遺方」 次「医辨」 封面題「長田徳本翁伝十線

中新理輯」 以下卷下 次文化十三年伊藤祐義〔識語〕 封

香方」 題簽題「長田徳本翁十線香伝方」

中山元治

賀川有齋口訣並手術解 81

*前掲「賀川有齋」項参照。

賀川有齋子産科口訣並手術解二卷 95

*前掲「賀川有齋」項参照。

西山砂保

辨編陰證答門一卷 136

*前掲「水門長庵」参照。

土生玄碩

土生家伝方一卷（他一種合収） 土生玄碩著 135

*前掲「荻野元凱」項『眼疾編…』参照。

畑金鷄

金鷄医談拔萃（他一種合収）〔畑金鷄〕 全一冊 107

*前掲「田代昌純」項『三喜齋秘伝医書…』参照。

服部鼎（元甫）

転翁医譚一卷（他一種合収）〔細野転翁述〕 服部鼎元甫筆記

11

*前掲「中川修亭」項『松浦問答…』参照。

華岡青洲（花岡／瑞軒）

金瘡治要一卷 華岡青洲口授 写本 全一冊 116

二十六・六×十七・七 十行十五字和文 無点

首「金瘡治要／青洲華岡先生口授」 題簽題「金瘡治要」

紅毛膏藥方選一卷卷木綿之伝書一卷（他一種合収）〔花岡瑞軒〕

文化十四年伊藤忠岱写本 全一冊 70

二十六・二×十八・五 十三行二十三字内外 無点

首「紅毛膏藥方選」末曰「文化十四年正月得紀州花岡瑞軒之

方於江戸下谷立花左近將監様御内西原省三之許写之／伊藤大

助藤原祐慶」次「花岡家卷木綿之伝書」（封面）末曰「文化

十四年丁丑二月二十三日写始同二十四日終／此書得江戸下谷

立花左近將監様御内西原省三之許写之乃紀州花岡瑞軒之伝書

也」次「杏蔭齋正骨術／目次」次「杏蔭齋正骨要訣／凡

例」次「杏蔭齋正骨要訣卷之上／肥前長崎吉原元棟隆仙著

／門人一西播龍城田鎌堂／西讚翰海綾大哉一同校」末曰「文

化十四年丁丑四月廿日写始同廿二日畢／右書者下中込村茂木

玄泉之藏書也其人游学于長崎而写之者請得而騰写焉」元表

紙曰「花岡家／紅毛膏藥方選／花岡家／卷木綿之伝書／杏蔭

齋／正骨要訣」

紅毛膏藥方選一卷卷木綿之伝書一卷（他一種合収）〔花岡瑞軒〕

写本 全一冊 142

- 二十七・〇×十八・七 十二行三十字内外 無点
- 首「紅毛膏藥方選」末曰「文化十四年正月得紀州花岡瑞軒之方於江戸下谷立花左近將監樣御内西原省三之許寫之」次「頭疵」〔花岡家卷木綿之伝書〕末曰「文化十四年丁丑二月得此書江戸下谷立花左近將監樣御内西原省三之許寫之乃紀州花岡瑞軒之伝書也」次「杏蔭齋正骨術／目次」次「杏蔭齋正骨要訣／凡例」次「杏蔭齋正骨要訣卷之上／肥前長崎吉原元棟隆仙著／門人一西播龍城田鎌堂／西讚翰海綾大哉一同校」末曰「文化十四年丁丑四月廿日右書者下中込村茂木玄泉之藏書也其人游学于長崎而寫之者請得而騰寫焉」元表紙曰「花岡家／紅毛膏藥方選／同／卷木綿之伝書／杏蔭齋／正骨要訣」題簽題「紀州花岡家膏方卷木綿伝書／肥前長崎杏蔭齋整骨術伝書」
- 産科瑣言一卷 青洲花岡先生口授 伊藤忠岱寫本 全一冊 140
- 二十六・九×十九・二 十行二十五字 和文 無点
- 首「産科瑣言／青洲花岡先生口授」元表紙曰「花岡青洲先生著述／産科瑣言」題簽題「産科瑣言」
- 春林軒禁方集一卷 〔華岡青洲〕 天保三年伊藤忠岱寫本 全一冊
- 二十六・六×十九・三 十行十九字内外 無点
- 首「春林軒禁方集」末曰「天保三年壬辰五月於摂州大坂御城内玉造口東御小屋松平但馬守樣御在番中寫之／伊藤祐義忠岱書」元表紙曰「春林軒禁方集」題簽題「春林軒禁方集」
- 春林軒瘍科方笈一卷 〔華岡青洲〕 伊藤忠岱寫本 全一冊 83
- 二十六・五×十九・五 十一行十八字内外 無点
- 首「春林軒瘍科方笈」題簽題「瘍科方笈」
- 春林堂膏（藥）方一卷（他一種合収） 花岡氏 文政六年伊藤忠岱寫本 全一冊 66
- 二十六・一×十八・七 十二行二十二字内外和文 無点
- 首「医方辨要」次「春林堂膏方 紀陽花岡氏」末曰「文政六年癸未正月三日寫之」題簽題「医法辨要 春林堂膏藥方」
- 青洲先生医話一卷 青洲先生 伊藤忠岱寫本 全一冊 84
- 二十六・九×十九・四 十二行二十三字内外和文 無点
- 首「青洲先生医話」封面題「青洲先生医話」裏有書入題簽題「青洲先生医話」
- 青囊秘録二卷 青洲花岡伝 伊藤忠岱寫本 全一冊 67
- 二十六・七×十八・七 十一行二十字内外和文 無点
- 首「青囊秘録卷之乾／南紀 青洲花岡先生伝」以下卷坤 次

「救溺死法」 元表紙曰「青囊秘録」 題簽題「青囊秘録」

燈下医談一卷 花岡青洲先生口授 伊藤忠岱写本 全一冊 91

二十六・九×十九・一 十行二十五字内外和文 無点

首「燈下談／目次」 次「燈下医談／紀陽花岡青洲先生口授」

題簽題「燈下談」又「紀陽花岡家」

瘍科瑣言二卷 花岡瑞軒 文化十四年伊藤忠岱写本 全一冊

141

二十六・七×十九・〇 十三行二十四字 無点

首「瘍科瑣言卷之上／目錄」 次「瘍科瑣言卷之上」 末曰

「文化十四年丁丑二月二十五日得立花左近將監様御家中西

原省三之許写始同二十八日終此紀州花岡瑞軒ノ外科伝書也」

次「瘍科瑣言卷之下」 末曰「此書ハ紀州花岡瑞軒之著述也

得之於立花左近將監様御内西原省三之許文化十四年二月二

十九日三月朔日ノ兩日写焉／伊藤大助藤原祐慶」 封面題

「瘍科瑣言」又封面曰「花岡家ノ瘍科瑣言 坤」 表紙曰「瘍

科瑣言 乾坤」

華岡鹿城

鹿城医談一卷 〔華岡鹿城〕 伊藤忠岱写本 全一冊 138

二十七・〇×十九・四 九行二十四字内外 無点

首「鹿城医談」 題簽題「鹿城医談」

原南陽

叢桂亭藏方（他五種合収） 〔原南陽〕 80

*前掲「惠美三白」項『晚成堂吐法私録…』参照。

古林見宜

古林七十方三卷 古林見宜口授 伊藤忠岱写本 全三冊 133

二十六・八×十九・二 十行二十四字内外 句点

首「古林七十方卷上／古林見宜口授」 以下至卷下 題簽題

「古林七十法」

細野軫翁

軫翁医譚一卷（他二種合収） 〔細野軫翁述〕 服部鼎元甫筆記

11

*前掲「中川修亭」項『松浦問答…』参照。

真嶋厚

真嶋流眼科伝一卷（他一種合収） 真嶋厚 23

*前掲「後藤良山」項『異人秘授五極…』参照。

湊長安

湊長安子治驗録二卷 湊長安 伊藤忠岱写本 全三冊 134

二十七・〇×十九・二 十二行二十六字内外 無点

首「客中請診病客請症卷上」次「湊氏治驗錄下」元表紙

曰「湊氏長安子治驗錄」題簽題「湊氏処方録」

村井琴山（杵・杵寿・椿寿）

痘瘡問答一卷〔吉益東洞？村井琴山？〕伊藤忠岱写本 全一冊

冊 59

二十六・八×十九・三 十二二十字内外和文 無点

〔肥後村井杵寿答／京師中川修亭書〕〔村井椿寿〕文化三年

以降伊藤忠岱写本 全一冊 3

二十七・〇×十八・六 十二行二十二字内外和文 無点

首「肥後熊本藩疾医医員邨井杵謹テ書ヲ作リテ／平安疾医／

中川大兄其德足下ニ奉復ス」末曰「文化三年丙寅膺月奉復／

中川大兄其德足下氣／邨井杵拝」次「副啓」末曰「村井椿

寿／中川修亭様」又曰「肥後熊本藩疾医員」題簽題「肥後

村井杵寿答／京師中川修亭書」

讀小刻傷寒論一卷（他一種合収）琴山村井杵撰 寛政六年桃井

安貞著 伊藤忠岱写本 全一冊 93

二十五・六×十八・九 十五行十七字 無点

首「讀小刻傷寒論／肥後琴山村井杵撰」次「痘瘡医事／東

奥桃井安貞子忠著／男義允恭夫校」元表紙曰「肥後村井琴

山先生著述／讀小刻傷寒論／桃井安貞撰述／痘疹医事」題

簽題「肥後村井琴山先生著述 讀小刻傷寒論／桃井安貞撰述

痘疹医事」

桃井安貞（子忠）

痘瘡医事一卷（他一種合収）桃井安貞子忠著 男義允恭夫校

93

*前掲「村井琴山」項『讀小刻傷寒論』参照。

山田寧（安貞）

山田氏伝方（他二種合収）山田寧安貞誌 11

*前掲「中川修亭」項『松浦問答』参照。

山田大円（謙斎・法橋）

眼科提要三卷 謙斎法橋山田大円著 文化十四年序同年以降伊藤

忠岱写本 全三冊 130

二十六・七×十八・七 十二行二十四字和文 無点

首文化十四年中川故「眼科提要序」次「眼科提要目次」次

「眼科提要卷上／謙斎 法橋 山田大円著／睫病第一二症」

以下至卷下 卷中前有中卷目次 題簽題「眼科提要」

山辺篤雅

産育編三卷 山辺篤雅著 寛政十年伊藤忠岱写本 全三冊 97

二十四・五×十七・二 八行十三字 朱句点

首「産育編卷上／中津医官東都山辺篤雅叟著」 以下至卷下

末曰「寛政十戊午歲十一月吉辰写之／伊藤大助／藤祐慶」 表

紙曰「産育編」 書入有薬名薬効等（卷下末）

産育編二卷 山辺篤雅文伯著 伊藤忠岱写本 全二冊 99

二十六・六×十九・二 十行二十字 句点

首「産育編卷上／豊前 中津医官東都山辺篤雅文伯著」 以

下卷下 表紙曰「産育編」

山脇家

山脇家法一卷 闕名 文化十三年伊藤忠岱写本 全一冊 22

二十六・六×十八・一 十二行二十四字内外 無点

首「山脇家法」 末曰「文化十三年丙子十月二十七日写始同

十一月三／日畢／伊藤大助藤原祐慶」 元表紙曰「山脇家法」

表紙曰「山脇家法」

山脇叔光

回生録一卷（他一種合収）〔賀川子玄〕 山脇叔光撰 85

*前掲「荻野元凱」項『方鈴丸散部…』参照。

柚木太淳

柚木流眼科秘録一卷同秘伝書一卷 139

*前掲「加門隆徳」項参照。

吉雄家

吉雄家方一卷（他二種合収） 63

*前掲「徳見茂四郎」項『徳見氏伝方…』参照。

吉雄永章

金瘡辨一卷紅毛外科金瘡集一卷 吉雄永章 文化十四年伊藤忠岱

写本 全一冊 119

二十六・六×十八・二 十三行二十三字和文 無点

首「金瘡辨／和蘭訳官 吉雄永章」 次「紅毛外科金瘡集」

末曰「右之書者下中込村茂木玄泉遊学于肥前長崎而得者也余

亦得而写之／文化十四年四月晦日写始同六日因兄孫助之病氣

到上州倉賀野寓須賀喜太郎以病人保養之閑暇同二十二日畢／

伊藤大助藤原祐慶」 元表紙曰「金瘡辨／紅毛外科金瘡伝」

題簽題「金瘡辨」

吉田篁墩

近聞偶筆抄（他八種合収） 篁墩吉漢宦学儒者 170

*前掲「大田錦城」項『中庸聞書…』参照。

吉益家

腹候辨一卷 吉益家 寛政十年伊藤忠岱写本 全一冊 31

二十四・二×十五・七 九行十九字内外 無点

首「腹候辨」次「腹候伝」末曰「右寛政十戊午年十月廿四

日／写始同廿五日畢／伊藤潜竜斎／藤祐慶」題簽題「吉益

家腹候辨」

吉益觀之光

傷寒論(二)卷 漢張仲景著 吉益觀之光撰次 享和三年成書同

年以降伊藤宗周写本 全二冊 2

二十六・七×十八・二 五行十字注文和文行間細字 無点

首「傷寒論／漢張仲景著／日本平安吉益觀之光／撰次」以

下第二冊(卷頭記載事項同) 第二冊末曰「享和三秋撰」表

紙曰「傷寒論」

吉益東洞(為則・公言)

古方名鑑二卷 吉益為則公言撰 中邨貞治子亨校 寛政十年伊藤

忠岱写本 全二冊 39

二十四・九×十五・四 八行十六字 朱句点 眉注書入

首「類聚方／日本藝陽吉益為則公言撰／門人石陽中邨貞治子

亨校」(末題「古方名鑑」) 以下下 次「分量考」 末曰「右

之書寛政十戊午正月二日筆立同七日畢／信州佐久郡春日村

／伊藤潜竜斎／祐義」表紙曰「古方名鑑」

疾医問答一卷 吉益為則公言述 文化十三年伊藤忠岱写本 全一

冊 46

二十六・二×十八・一 十二行二十字 朱句点

首「疾医問答／平安吉益為則公言述」次文化十三年伊藤祐

慶(識語)末曰「文化十三年丙子九月六日写始同十六日終／

伊藤大助藤原祐慶謹書」元表紙曰「疾医問答」表紙曰「疾

医問答」

東洞先生丸散方(他二種合収) 東洞先生 40

*前掲「伊藤見龍」項『諸百家医書掌中目錄』参照。

痘瘡問答一卷 59

*前掲「村井琴山」項参照。

腹診要訣一卷 東洞先生口授 寛政十一年伊藤忠岱写本 全一冊

45

二十四・六×十五・五 八行十七字内外和文 無点

首「服診要訣」末曰「右書寛政十一己未歲三月上巳日写之

／伊藤潜竜斎／藤祐慶」元表紙曰「腹診要訣／東洞先生口

授」表紙曰「東洞先生腹診要訣」

藥徵三卷 吉益東洞著 田中殖郷玄番等校 寛政九年伊藤忠岱写

本 全三冊 44

二十四・二×十五・四 八行十五字内外 無点

首「菓徵卷之上目次」 次「菓徵卷之上／東洞吉益先生著／

安藝田中殖郷玄番／石見中邨貞治子享／平安加藤白圭子復

一同校」 以下至卷 末曰「右之書者寛政九丁巳年十二月五日

筆ヲ立同十四日写畢者也／伊藤潜竜斎／藤原祐慶」 表紙曰

「菓徵」

類聚方二卷 吉益為則公言撰 中邨貞治子享校 寛政十年伊藤忠

岱写本 全二冊 38

二十四・七×十五・四 八行十四字内外 無点

首「類聚方／日本藝陽吉益為則公言撰／門人石陽中邨貞治子

享校」 以下下 末曰「寛政十戊午歲正月十日筆立同十六日

畢／伊藤潜竜斎／藤祐義」 表紙曰「吉益類聚方」

吉益南涯（猷・修夫）

險證百問一卷菓能考一卷治驗録一卷 南涯吉益先生著述 享和四

年（文化元年）、文政九年伊藤忠岱写本 全一冊 18

二十六・五×十八・六 十三行二十一字 眉注 句点

首「險證百問」 次「菓能考」 次寛政十一年「南涯先生治

驗録序」 次「凡例」 次「氣血水辨」（以下本文） 末曰

「文化元（甲／子）年（二月十五日享和四／年改元日文化）

三月三日写」「復文政九年（丙／辰）七月二十三日改写」 題

簽題「險證百問／菓能考／治驗録一南涯吉益先生著述」 印

記「仰繼／堂臧」

南涯先生当附疑途辨一卷南涯先生痘瘡処剂畧一卷（他一種合収）

16

*前掲「中川修亭」項『傷寒厥陰證口決』参照。

南涯先生文集一卷 「吉益南涯」 天明二年以降成書伊藤忠岱写

本 全一冊 19

二十六・六×十八・七 十二行二十二字 無点

首「南涯先生文集／氣血水辨」 以下「病毒所在論」「医範」

「医非司命■論」「報玉江昌純書」「答池口仲恕書」 次（無

題） 次「医範 羸齋先生」 末曰「天明二年七月吉益辰艸」

題簽題「南涯先生文集」

方庸一卷 南涯吉益先生口授 文政十一年伊藤忠岱写本 全一冊

13

二十六・七×十八・七 十行十八字 句点

首「方庸／南涯吉益先生口授」 末曰「文政十一年子二月篤／

信濃鹿里伊藤祐義忠岱」 元表紙曰「方庸 南涯吉益先生口

授」 題簽題「方庸」又「南涯吉益先生口授」

葉徵聞書一卷 南涯吉益先生講說 伊藤祐義忠岱筆記 伊藤忠岱

寫本 全一冊 8

二十七・〇×十八・四 六行十七字注文和文十二行二十六字

內外 無点

首「葉徵聞書／南涯吉益先生講說／信濃伊藤祐義忠岱筆記」

題簽題「葉徵聞書」

類証辨疑二卷 南涯先生口授 伊藤忠岱寫本 全二冊 21

二十六・四×十八・七 八行十六字注文小字双行 無点

首「類証辨疑／南涯先生口授」 次「類証辨疑／南涯先生口

授」 元表紙曰「類證辨疑」 題簽題「類證辨疑」

傷寒論聞書（存卷四） 南涯吉益先生講說 吉田良平筆記 伊藤忠岱寫本 一冊 15

金匱要略二卷 漢張仲景著 南涯先生講說 伊藤忠岱寫本 全二

冊 10

二十六・六×十八・六 四行十二字注文和文行間細字 無点

首「金匱要略／漢張仲景著」 以下第二冊（卷頭題同） 題

簽題「金匱要略」又「南涯先生講說」

金匱要略聞書四卷 南涯吉益先生講說 伊藤祐義忠岱筆記 寫本

全三冊 5

傷寒論聞書七卷 南涯先生口授 漢張仲景著 晋王叔和撰次 伊

藤忠岱寫本 全三冊 6

二十六・九×十八・七 七行十四字注文和文十二行二十五字 無点

首「金匱要略聞書卷一／南涯吉益先生講說／信濃伊藤祐義忠

岱筆記」 以下至卷四 題簽題「金匱要略聞書」又「南涯先

生講說」

〔傷寒論聞書〕一卷 南涯吉益先生講說 寫本 全一冊 12

二十六・六×十八・七 四行十二字注文行間細字 無点

首「傷寒論／辨太陽病脉證並治法上」 元表紙曰「南涯吉益

先生講說／傷寒論聞書」 題簽題「傷寒論」又「南涯先生講

說」

字內外 無点

首「傷寒論聞書／南涯吉益先生講說／上毛吉田良平筆記」

元表紙曰「南涯吉益先生講說／傷寒論聞書」 題簽題「傷寒

論聞書」

二十六・五×十八・八 七行十四字注文和文小字双行 無点

首「傷寒論問書卷一／南涯先生口授／漢張仲景著 晋王叔和

撰次」 以下至卷七 題簽題「傷寒論問書」又「南涯吉益先

生講說」

傷寒論正義二卷 吉益猷修夫著 文政六年九月伊藤忠岱写本 全

一冊 17

二十六・四×十八・七 六行十四字注文小字双行十九字内外

朱句点

首「傷寒論正義序／平安 吉益猷修夫著 次「傷寒論正義上」

以下下 末曰「文政六年癸未九月写之」 元表紙曰「傷寒論

正義」 題簽題「傷寒論正義」

傷寒論反正一卷 南涯吉益先生說 須藤寿圭筆記 伊藤宗周写據

享和二年九月伊藤忠岱写本 全一冊 14

二十六・二×十九・九 十行十五字内外注文行間細字 無点

首寛政十二年須藤寿圭「傷寒論反正凡例」末丁裏有「唐類函」

「書」「字書」「淮南子」等引用 次「傷寒論反正／南涯吉益

先生說／門人須藤寿圭筆記」末曰「幼名犬松後称大助祐慶

雍髮号／忠岱祐義此書年二十六歳(下キ)記」又曰「于時

享和二壬戌年九月十六日写始同／二十六日而功畢／伊藤潜

龍齋／藤祐慶」 題簽題「傷寒論反正」又「上須藤寿圭說／

伊藤宗周祐之表書付」

吉益半咲齋

換骨抄一卷 吉益半咲齋著述 伊藤忠岱写本 全一冊 118

二十六・七×十八・七 十二行十九字内外注文小字双行 無

点

首「換骨抄拔萃之書」 次天正三年吉益半咲齋／參「換骨抄

「序」 次「几療手負：(以下本文)」 元表紙曰「吉益半

咲齋著述／換骨抄」 題簽題「吉益半咲齋換骨抄」

吉益北洲

金匱要略問書一卷 北州吉益先生口授 写本 全二冊 1

二十二・五×十五・八 十二行大字二十字内外小字二十八字

内外注文和文一部小字双行 眉注 無点

首「金匱要略北州吉益先生口授」 題簽題「金匱要略問書」

又「北州先生」 封面裏有生藥藥効等書入

吉益羸齋

羸齋吉益先生医範不分卷 羸齋吉益先生 伊藤忠岱写本 全一冊

4

二十六・七×十八・八 六行十字注文和文十二行二十字 無

点

首「羸齋吉益先生医範」 元表紙曰「医範」 題簽題「医範」

又「羸齋吉益先生」

吉村遍宜

痘疹必用方（他五種合収） 吉村遍宜 80

*前掲「惠美三白」項『晚成堂吐法私録…』参照。

吉原元棟

杏蔭齋正骨要訣一卷（他二種合収） 吉原元棟隆仙著 70

*前掲「華岡青洲」項『紅毛膏藥方選…』参照。

和田東郭（泰純・含章齋）

含章齋医事雜談一卷（和田東郭） 文化十二年伊藤忠信寫本 全

一冊 75

二十六・九×十九・二 十五行三十字内外和文 無点

首「含章齋医事雜談」末曰「文化十二乙亥年十月五日始同七

日畢／伊藤大助藤原祐慶」 題簽題「含章齋医事雜談」

含章齋經驗方一卷（和田東郭） 天保二年伊藤忠信寫本 全一

冊 78

二十六・八×十九・三 九行二十一字和文 無点

首「含章齋經驗方」末曰「天保二辛卯年八月十日於摂州大坂

城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中寫焉／伊藤祐義忠

岱」 元表紙曰「含章齋經驗方」 題簽題「含章齋經驗方」

蕉窓齋治驗録一卷（和田東郭） 寫本 全一冊 73

二十七・〇×十九・四 九行二十一字 無点

首「蕉窓齋治驗録」 元表紙曰「蕉窓齋治驗録」 題簽題「蕉

窓齋治驗録」

蕉窓方意解一卷 和田東郭口授 寫本 全一冊 72

二十六・四×十八・二 十二行二十五字内外和文 眉注

首「蕉窓方意解／東郭和田先生口授」 次「御医法眼和田君

碑陰銘 源之（熙）撰併書」 題簽題「蕉窓方意解」

東郭先生家藏方（他五種合収） 和田東郭 80

*前掲「惠美三白」項『晚成堂吐法私録…』参照。

導水瑣言一卷 和田東郭先生選 享和二年伊藤忠信寫本 全一冊

74

二十四・八×十七・〇 十二行十七字内外和文 無点

首「導水瑣言」 次「附脚氣風毒」（末題「導水瑣言附録」）

末曰「享和二壬戌年九月十三日寫／伊藤大助／祐慶」 元表

紙曰「導水瑣言」又「和田東郭先生選（号泰純為曲人菜（允

／任法眼）」「御医和田君碑陰銘」 題簽題「導水瑣言」又「皇

都和田東郭先生著述

徽瘡一家伝一卷 和田泰純著 天保三年伊藤忠岱写本 全一冊

77

二十六・九×十九・三 十行二十四字内外和文 無点

首「徽瘡一家伝／和田泰純著」末曰「天保三年壬辰五月於撰

州大坂城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之／伊藤

祐義忠岱書」元表紙曰「徽瘡一家伝」題簽題「徽瘡一家

伝

〔方輿外伝〕〔和田東郭〕写本 全二冊 128

二十六・七×十八・七 十二行三十字内外 朱句点

首「諸方經驗録／目次」次「序」次「婦人妊娠」(以下本

文) 次「鼓脹」題簽題「方輿外伝」

方輿外伝(存卷二)〔和田東郭〕伊藤忠岱写本 一冊 129

二十九・一×十九・二 十二行二十六字内外和文 無点

首「方輿外伝卷二」題簽題「方輿外伝」

方輿外伝(存卷四至六)〔和田東郭〕文政五年伊藤忠岱写本

三冊 131

二十六・九×十八・七 十二行二十八字内外 和文 無点

首「方輿外伝四／鼓脹」以下至六 一部卷末有書写日付 元

表紙曰「方輿外伝 四」題簽題「方輿外伝」

闕名

医方辨要一卷(他一種合収) 闕名 66

*前掲「華岡青洲」項『春林堂膏(藥)方』参照。

金瘡口伝書一卷金瘡諸家説一卷 闕名 文化十四年伊藤忠岱写本

全一冊 124

二十六・二×十八・二 十三行二十三字和文注文小字双行

無点

首「金瘡口伝」次「金瘡諸家説」末曰「右書者下中込村

茂木源泉遊学肥前之長崎而得所也余借而文化十四年四月二十

五日写始二十八日畢／伊藤大助藤原祐慶四十歳ニシテ写焉」

封面題「金瘡口伝書／金瘡諸家説」題簽題「金瘡口伝書／

金瘡諸家説」

金瘡神機一卷 闕名 伊藤忠岱写本 全一冊 121

二十六・九×十九・三 十行二十二字内外和文注文小字双行

無点

首「金瘡神機」元表紙曰「金瘡神機」題簽題「金瘡神機」

産科輯要二卷 闕名 伊藤忠岱写本 全二冊 94

二十六・九×十八・九 十二行二十二字内外和文 無点

首「産科輯要」次「産科輯要卷之下」元表紙曰「産科輯要」題簽題「産科輯要」

質篤滿眼科書(存卷三、四) 闕名 伊藤忠岱写本 一冊 132

二十六・七×十八・一 十行二十七字内外和文 無点

首「第二十九篇 眼胞病門」次「第二十九篇 / 灰色翳及其

続發證」元表紙曰「質篤滿眼科書 三四」題簽題「質篤

滿眼科書」

小兒全書 虻蟲篇二卷 闕名講說 伊藤忠岱祐義筆記並写本 全二

冊 69

二十六・九×十八・七 十行二十六字内外和文注文字小字双行

傍線

首「小兒全書 / 虻蟲篇」末曰「信濃春日 伊藤忠岱祐義写録」

以下 末曰「信濃鹿里 伊藤忠岱祐義筆記」元表紙曰「小

兒全書 虻蟲篇上(二二 / 十三上)(第一冊)「小兒全書

虻蟲篇下(二三 / 十三下)(第二冊)題簽題「小兒全書」

又「鹿里伊藤忠岱祐義筆記」印記「仰繼 / 堂臧」

女病帶下考一卷 闕名 天保二年伊藤忠岱写本 全一冊 24

二十六・八×十九・三 十行二十二字内外注文和文小字双行

句点

首「女病帶下考」末曰「天保二年辛卯九月於摂州御城内玉造口東御小屋松平但馬守様御在番中写之 / 伊藤代助書」次

文政九年 中川壺山(跋) 題簽題「女病帶下考」

幼科保寿先生口訣一卷 闕名 伊藤忠岱写本 全一冊 65

二十六・七×十九・三 十行二十五字内外和文 無点

首「幼科保寿先生口訣」題簽題「幼科口訣」

古易精義一卷 闕名 伊藤忠岱写本 全一冊 153

二十七・三×十八・六 十二行二十五字 朱傍線 朱句点

團

首「古易精義」元表紙曰「古易精義」題簽題「古易精

義」

孟子七卷 闕名講說 文政四年六月伊藤忠岱写本 全七冊 206

二十六・八×十九・〇 五行十六字内外和文 有凶 傍注

首「孟子」以下至(卷七(末題)) 卷五末曰「四五ノ卷

ハ文政四年六月九日ニ別所ヨリ上田ニ至リ下紺屋町宮下辨

達 / 子ノ許ニテ傷寒論講說ノ間暇ヲ得同十一日ヨリ十七日

ニ至テヲハル」元表紙曰「孟子」題簽題「孟子聞書」

金匱要略題略一卷 闕名 文政十二年伊藤忠岱写本 全一冊

二十六・〇×十八・七 十二行二十字 句点

首「金匱要略雕題略」末曰「文化丁卯春三月八日一過畢 希

范／文化戊辰春三月念三日写畢 壺山／文化丁丑秋七月十

二日写畢 榛山／文政己丑冬十月念九日写畢 竹坡／文政

己丑冬極月念九日写畢 鹿里」 元表紙曰「金匱要略雕題」

題簽題「金匱要略雕題」

〔莊子講說聞書〕十卷 闕名講說 文政四年伊藤忠岱写本 全十

冊 214

二十六・九×十九・〇 五行十五字注文和文小字双行字数不

定 傍注

首郭象「南華真經旧序／河南郭象子玄撰」 次服（服部）元

喬「読郭注莊子」 次「莊子南華真經卷一」 以下至卷十 卷

九末曰「文政四年辛巳八月十八日写始九月五日写終」 元表

紙曰「莊子講說聞書」 題簽題「莊子聞書」 印記「仰」

分類別資料数

○統括的分類*															
	計	著述	聞書		計	著述	聞書		計		著述	聞書			
国書	137	135	2	総記	5	5	0	叢書	1		1	0			
				文学	6	6	0	随筆	4		4	0			
								消息	1		1	0			
								歌集	1		1	0			
漢学	4		4	0											
準漢籍	90	45	45	経部	51	28	23	医書	126		124	2			
								易書	15		7	8			
								詩	5		4	1			
								春秋	2		3	2			
								四書	21	論語	5		1	4	
										孟子	7		4	3	
										大学	4		2	2	
										中庸	5		4	1	
								孝經	2		1	1			
								諸經総義	1		1	0			
				儒家	1		0	1							
				子部	39	17	22	医家	21		金匱	6		1	5
								傷寒	15		11	4			
								雜家	2		2	1	1		
								道家	15	老子	8		3	5	
										莊子	5		1	4	
				列子	2		0	2							
計	227	180	47		227	180	47		227		180	47			
*一冊に、別著者の複数の資料が合収されている場合もあるが、それらの各合収資料の多くは、同分類のため、子目別には計上せず、一分類に統括。但し、別分類の複数資料が合収されている場合、「叢書」とした。															
○各著者標題別分類															
	計	著述	聞書		計	著述	聞書		計		著述	聞書			
国書	178	172	6	総記	5	5	0	叢書	1		1	0			
				文学	8	8	0	随筆	4		4	0			
								消息	1		1	0			
								歌集	1		1	0			
漢学	6		6	0											
準漢籍	97	49	48	経部	53	29	24	医書	165		159	6			
								易書	15		7	8			
								詩	5		4	1			
								春秋	2		3	2			
								四書	23	論語	5		1	4	
										孟子	7		4	3	
										大学	4		2	2	
										中庸	7		5	2	
								孝經	2		1	1			
								諸經総義	1		1	0			
				儒家	2		0	2							
				子部	44	20	24	医家	24		金匱	6		1	5
								傷寒	18		14	4			
								雜家	2		2	1	1		
								道家	16	老子	9		3	6	
										莊子	5		1	4	
				列子	2		0	2							
計	275	221	54		275	221	54		275		221	54			

各著者標題別資料数

		著者	計	国書	準漢籍		著者	計	国書	準漢籍
あ	1	浅井南溟	1	1	0		42 中川修亭	22	18	4
い	2	猪飼敬所	1	1	0		(講義録類)	(2)	(0)	(2)
	3	池田成美	1	1	0		43 永田徳本	3	3	0
	4	池田正直	2	2	0		44 永富独嘯庵	1	1	0
	5	伊藤見龍	1	1	0		45 中西深斎	1	1	0
	6	伊藤仁斎	1	0	1		46 中村環中	1	1	0
	7	伊藤忠岱	6	2	4		47 中山元治	2	2	0
	8	今井松庵	9	4	5	に	48 西山砂保	1	1	0
	9	巖恭敬	1	1	0	は	49 土生玄碩	1	1	0
う	10	宇田川玄真	1	1	0		50 畑金鷄	1	1	0
え	11	永允周楨	1	1	0		51 服部鼎	1	1	0
	12	恵美三白	4	4	0		52 華岡青洲	13	13	0
お	13	大田錦城	58	10	48		53 華岡鹿城	1	1	0
		(講義録類)	(26)	(0)	(26)		54 原南陽	1	1	0
	14	大田晴軒	15	1	14	ふ	55 古林見宣	1	1	0
		(講義録類)	(9)	(0)	(9)	ほ	56 細野軫翁	1	1	0
	15	大田晩成	2	0	2	ま	57 真嶋厚	1	1	0
		(講義録類)	(1)	(0)	(2)	み	58 湊長安	1	1	0
	16	荻野元凱	5	5	0	む	59 村井琴山	3	1	2
	17	奥劣斎	4	4	0	も	60 桃井安貞	1	1	0
か	18	海保尚賢	1	1	0	や	61 山田寧	1	1	0
	19	賀川玄悦	4	4	0		62 山田大円	1	1	0
	20	香川修庵	2	2	0		63 山辺篤雅	2	2	0
	21	賀川有斎	2	2	0		64 山脇家	1	1	0
	22	賀川蘭斎	1	1	0		65 山脇叔光	1	1	0
	23	葛西因是	1	0	1	ゆ	66 柚木太淳	1	1	0
	24	加藤氏	1	1	0	よ	67 吉雄家	1	1	0
	25	加門隆徳	1	1	0		68 吉雄永章	1	1	0
	26	河口信任	1	1	0		69 吉田篁墩	1	1	0
き	27	雉間煥	2	2	0		70 吉益家	1	1	0
こ	28	[古賀朝陽]	1	0	1		71 吉益觀之光	1	0	1
		(講義録類)	(1)	(0)	(1)		72 吉益東洞	7	7	0
	29	後藤艮山	1	1	0		73 吉益南涯	16	9	7
	30	後藤省	1	1	0		(講義録類)	(7)	(1)	(2)
さ	31	坂口氏	1	1	0		74 吉益半咲斎	1	1	0
し	32	新宮涼庭	2	2	0		75 吉益北洲	1	0	1
す	33	水門長庵	1	1	0		(講義録類)	(1)	(0)	(1)
	34	杉本樗園	1	1	0		76 吉益羸斎	1	1	0
た	35	高野長英	10	10	0		77 吉村遍宜	1	1	0
		(講義録類)	(3)	(3)	(0)		78 吉原元棟	1	1	0
	36	田代昌純	1	1	0	わ	79 和田東郭	10	10	0
	37	田中栄信	1	1	0		80 関名	12	8	4
ち	38	[朝陽右門]	1	1	0		(講義録類)	(3)	(1)	(2)
と	39	徳見茂四郎	1	1	0		合計	275	178	97
	40	豊浦元貞	1	0	1		(講義録類)	(54)	(6)	(48)
な	41	中神琴溪	4	3	1					
		(講義録類)	(1)	(1)	(0)					